

## 5章 3R リーダー意識・行動に関するアンケート調査

### 5.1 はじめに

持続可能な循環型社会の形成のためには、一人ひとりの意識と行動が変わっていく必要がある。そのためには、3R 行動の普及を目指して他者に働きかける主体の形成・増加が重要だと考えられる。

本研究では、このように 3R 行動の普及を目指して他者に働きかける主体を 3R リーダーと呼ぶ。本章では、一般市民とともに、3R リーダーの有力な候補である 3R 検定受験者（以下、本章では検定受験者と略記）に対してアンケート調査を実施し、3R リーダーとしての活動の実施状況や今後の意向、期待されるサポートなどを明らかにし、今後の 3R リーダー養成プログラムのあり方の検討のための基礎情報を得ることを目的とする。また、どのようなきっかけで 3R リーダーとして活動するようになったか、そのような活動をしている人としていない人には、どのような意識・行動の違いがあるのか、などについて分析することで、今後、3R リーダーを増やしていくために必要な取組みについて検討することも目的とする。

本章では、2008 年度に、主として検定受験者への質問紙調査データと、学生、および、京都市在住者、および、これらを除く日本全国の一般市民（インターネット調査モニター）を対象として行ったインターネット調査データを用いて、以上の分析を行う。その調査の概要は、3.1 で述べたので割愛する。

また、2009 年度に第一回及び第二回検定合格者に表 5-1 の調査を行った。

表 5-1 第一回及び第二回受験者へのアンケート調査

対象	第一回検定合格者	第二回検定合格者
実施時期	2010 年 2 月末～（特に期限を定めなかったが、3 月上旬を中心に返信）	
実施方法	合格者向けに、専門情報誌を郵送する際に、アンケート調査票を同封し、記入後、郵送、メール、FAX で提出してくれるよう協力を呼びかけた。	
質問内容	合格後の活動状況や人材データベースへの登録に対する意思、参加したい活動、知識のアップデートなどについて（A4-2 枚）	受験理由と感想や人材データベースへの登録に対する意思、参加したい活動、知識のアップデートなどについて（A4-2 枚）
送付数	約 1,200	約 500
回収数	35	31

※回収数は 2010 年 3 月末時点

### 5.2 3R リーダー活動と意識の実態 ～検定受験者と一般市民・京都市民・学生の比較～

#### 5.2.1 環境啓発・教育活動の実施状況

ごみ減量の有効な方法やごみ問題に関する情報を他人（家族以外）に対して伝えたり、広めたり教えたりする活動を以下では、環境啓発・教育活動と呼ぶこととする。3R リーダーとは、環境啓発・教育活動を行っている人と言い換えることができるだろう。

環境啓発・教育活動の実施状況に関する設問の結果を図 5-1 に示す。なお、2009 年度の学生アンケートの結果等も加えたものを図 5-20 に示す。

検定受験者では、「現在行っており、今後も行いたい」と答えた割合、すなわち 3R リーダーの割合は 50% と半数いるのに対し、京都市民では 13%、一般市民では 18%、学生では 11% と低い割合となった。「現在、環境啓発・教育活動を行っていないが、今後は行ってみよう」と答えた割合は検定受験者で 40%、京都市民で 39%、一般市民で 40%、学生で 47% 存在することがわかった。逆に「今後、環境啓発・教育活動をしたくない」と答えた割合は検定受験者で 10%、京都市民で 49%、一般市民で 43%、学生で 43% 存在した。

これらの結果から、検定受験者には 3R リーダーが多いことが明らかとなった。加えて興味深いことは、検定受験者以外においても、「現在、環境啓発・教育活動を行っていないが、今後は行ってみよう」と答えた人（以下、リーダー意向ありの人とする）が 4 割前後存在することである。このことから 3R リーダーを増やし、循環型社会の構築を目指すには、まずはリーダー意向ありの人が環境啓発・教育活動の実践に踏み出せるよう、後押しをすることが有効だと考えられる。そのようにして周囲に働きかけていく人が増えることで、次第に、その人の周りの人々の生活行動が 3R 型に変わっていくことが期待される。

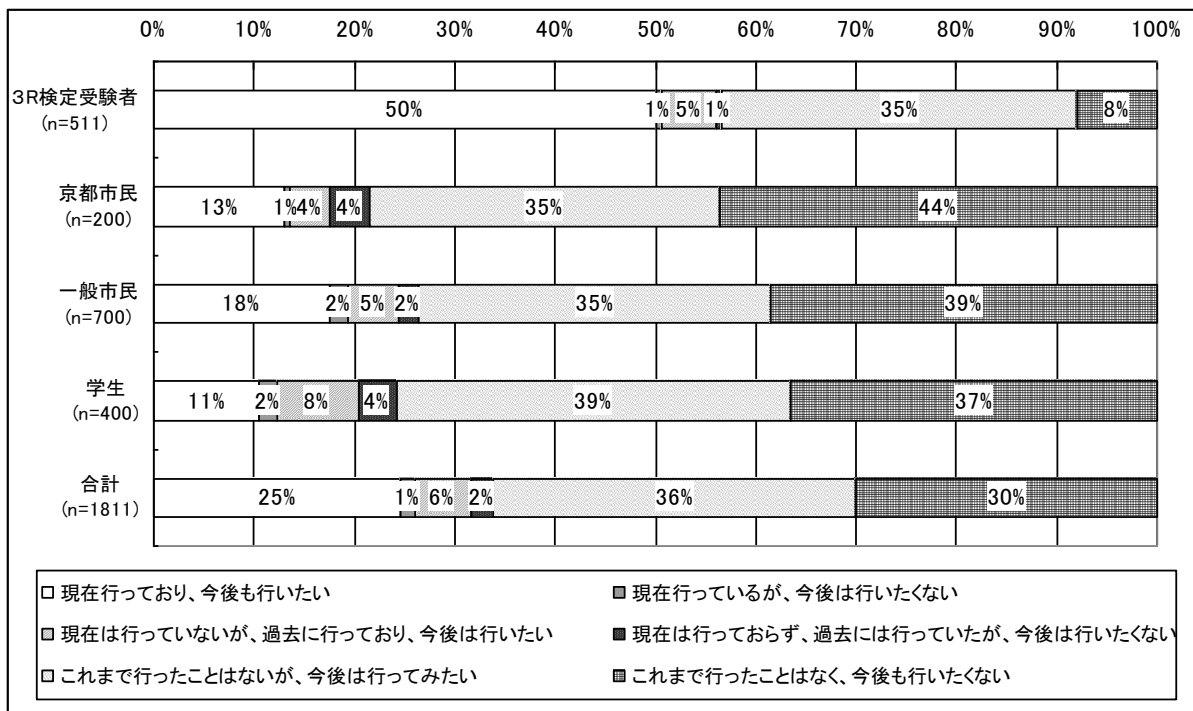


図 5-1 環境啓発・教育活動の実施状況

### 5.2.2 行っている、あるいは行っていた環境啓発・教育活動の内容

それでは、実施されている環境啓発・教育活動の内容はどのような分野の活動であろうか。現在行っている、あるいは以前に行っていた活動の内容の集計結果を図 5-2 に示す。

検定受験者において、「3R、ごみ問題に関する活動」の割合が 82%と高かったが、他のグループでは、温暖化防止と 3R・ごみ問題の活動は同程度になっている。また一般市民（京都市以外）の 3R リーダーに絞ってこの両者を両方行なっている人の割合を見てみると、約 4 分の 1 の回答者が両方している／いたと回答していた。検定受験者ではその割合が約 1/3 と増加した。このことから、これらの 2 つの問題に関する情報を関連付けながら提供することが有効であると考えられる。

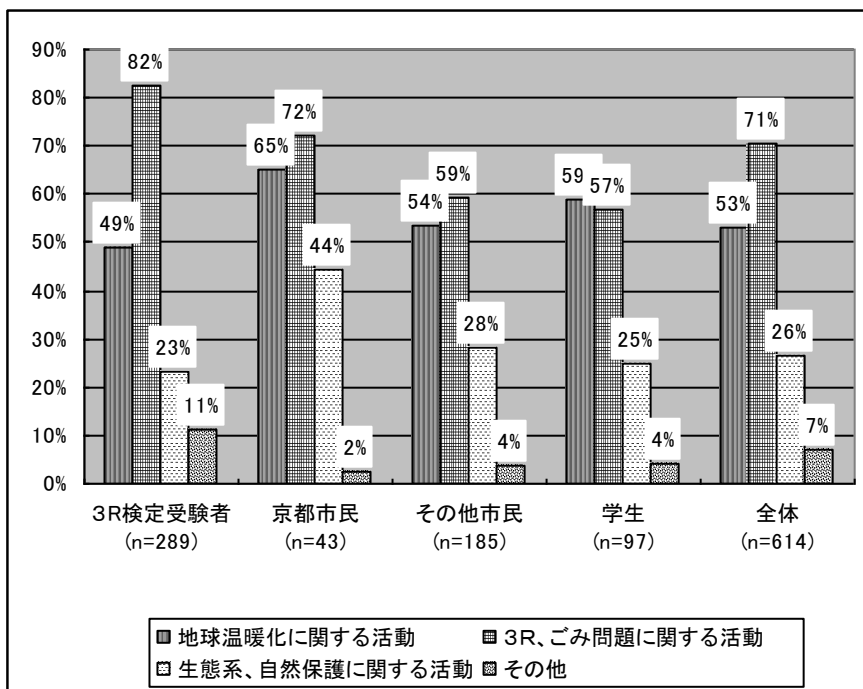


図 5-2 環境啓発・教育活動の内容

### 5.2.3 環境啓発・教育活動の立場について

それでは、このような環境啓発・教育活動は、どのような立場で行なわれているのだろうか。とくに検定受験者には企業や自治体からの受験者も多いことから、一般の調査結果とは異なる特徴を持つ可能性がある。集計結果を図 5-3 に示す。

検定受験者には企業や自治体の CSR 担当者や環境対策担当者がもともと多かったため、そのような立場で活動を行っている人が 50%と最も多い結果となった。この点は、一般とは大きく異なる特徴である。京

都市民、一般市民、学生においては「資格などは持たないが、個人として」活動を行っている人の割合がそれぞれ63%、61%、52%と半数以上を占める結果となった。また京都市民にはそれほど多くなかったが、それ以外の一般市民においては、PTA・自治会などの地域活動のメンバーとして活動している割合が2割弱と比較的多い。一方、学生では、環境サークルや環境に関する研究・ゼミのメンバーなど学生独自の活動と、環境団体や地域活動、社会団体の活動が、それぞれ15%前後と少なくなく、こうした活動の場が環境啓発・教育活動を実施する場として一定の役割を持っていると考えられる。

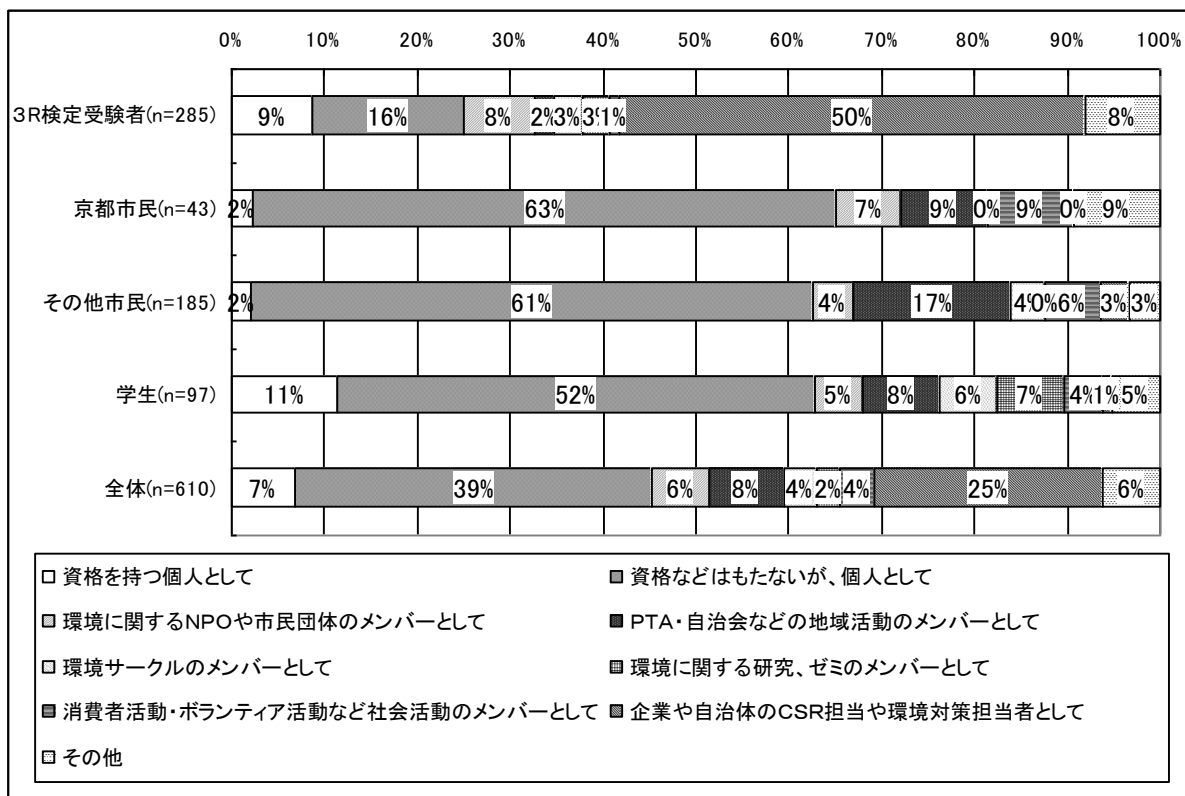


図 5-3 環境啓発・教育活動をする際の立場

#### 5.2.4 環境啓発・教育活動のきっかけ

それではこうした環境啓発・教育活動は、どのようなきっかけで行うようになったのであろうか。環境啓発・教育活動を始めた直接のきっかけについての尋ねた結果を図5-4に示す。

検定受験者に関しては前述の活動の立場と同様に「企業や自治体などのCSR担当や環境対策者となった」という項目の割合が51%と一番多く、「なんとなく」「覚えていない」は6%(4%、2%)と少なかった。この点は、他のグループと比較したときの検定受験者の特徴となっている。また「資格などを得たのでやってみようと思った」と回答する割合も相対的に高め、検定受験者の特徴と考えられる。

京都市民、一般市民、学生では逆に「なんとなく」「覚えていない」を選択した割合がそれぞれ合計70%(40%、30%)、56%(38%、18%)、62%(37%、25%)と多い。

京都市以外の一般市民では、「なんとなく」「覚えていない」以外では、「PTAや自治会などで環境担当者になった」が13%と相対的に多く、「企業や自治体などのCSR担当や環境対策者となった」も6%となった。役割としてやることになったのがきっかけという人が約2割ということになる。講演会等に参加したり、団体等の活動を知ったりすることがきっかけで自発的に始めた人も6%ずつ、あわせて1割強存在する。活動をしている人から誘われて始めるケースはあまり多くはなく4%となった。

京都市民は、その他の市民と比較すると、イベントに参加したり、団体の活動を知ったりすることで始める人がやや多く、役割として始めた人は相対的に少ない。それぞれの機会の多寡に影響を受けている可能性がある。

学生は、活動を行っている人から誘われて、という人の割合が多く、地域や組織の環境担当になったことがきっかけという人の割合が少ない。地域や組織の環境担当になったことがきっかけにならないのは、学生という属性からある程度しかたがないが、誘われて始める人が多いのは、ゼミや環境サークルのメン

バーとして行なっている割合が相対的に多いことと対応すると考えられる。

以上のことから、きっかけとしては、一般的にははっきり記憶していることが少ないが、役割が与えられたことや、イベントへの参加・団体の活動情報の認知などは、環境啓発・教育活動を始めるきっかけとして一定の重要な位置を占めることが明らかとなった。

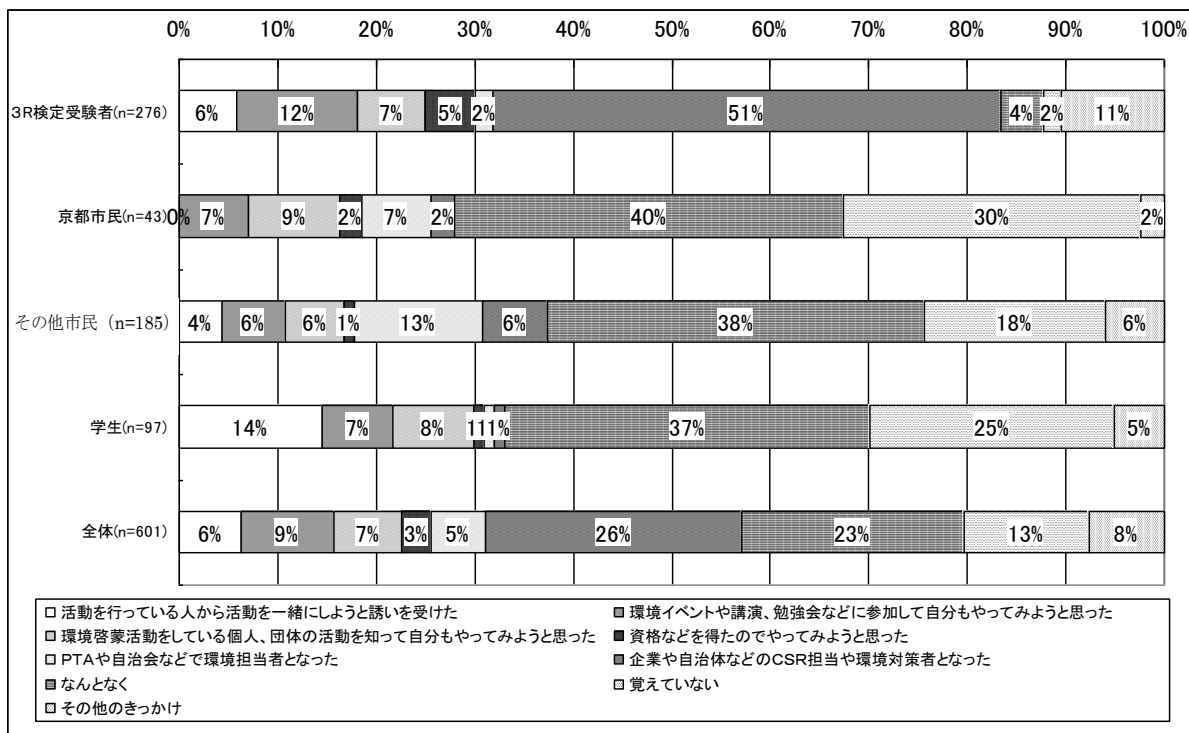


図 5-4 環境啓発・教育活動を始めるきっかけ

### 5.2.5 環境啓発・教育活動に関する意識

それでは、このような環境啓発・教育活動をしている人と、そうでない人との間には、どのような意識の違いがあるのだろうか。以下、いくつかの意識について比較していく。なお、調査対象としたグループによる違いも考えられることから、以下では調査グループ別に、環境啓発・教育活動水準と意識との関係について検討する。

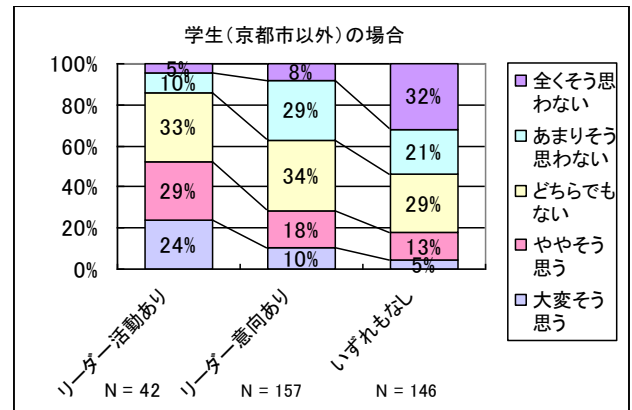
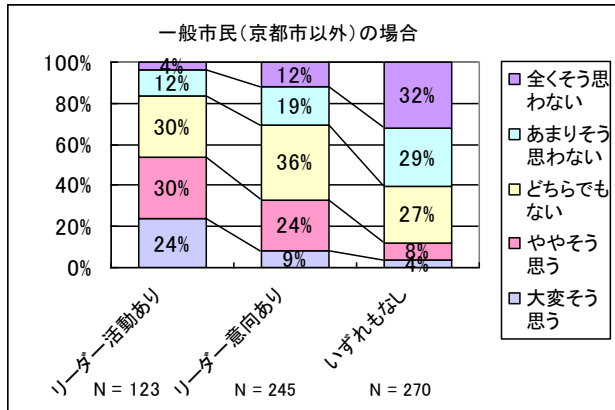
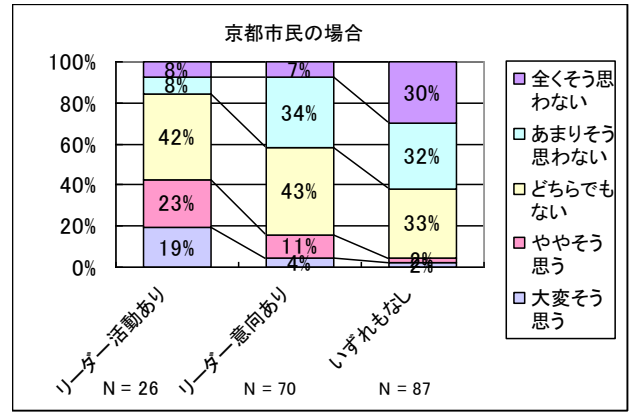
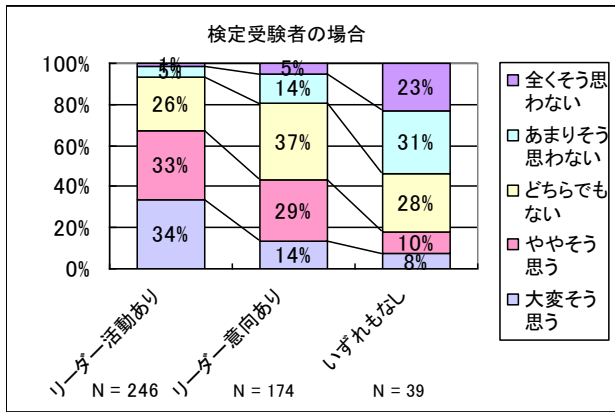
初めに、社会規範・他者からの期待に関係する意識について検討する。

図 5-5 に、調査グループ別の「環境啓発・教育活動水準」と「環境啓発・教育活動を求められていると感じる程度」との関係について示す。なお、「環境啓発・教育活動水準」のカテゴリーとしては、図 5-1 で典型的なグループと考えられた 3 つの選択肢を採用した。具体的には、「現在行なっており、今後も行ないたい」と回答した人を「リーダー活動あり」、「これまで行ったことはないが、今後は行なってみよう」と回答した人を「リーダー意向あり」、「これまで行ったことはなく、今後は行ないたくない」と回答した人を「いずれもなし」とした。

全体的に環境啓発・教育活動水準が高い人ほど「環境啓発・教育活動に対する他者からの期待意識」（環境啓発・教育活動を求められていると感じる程度）の高い人が多い傾向が見られる。このことから、他者からの期待意識が環境啓発・教育活動水準に影響している可能性がある。

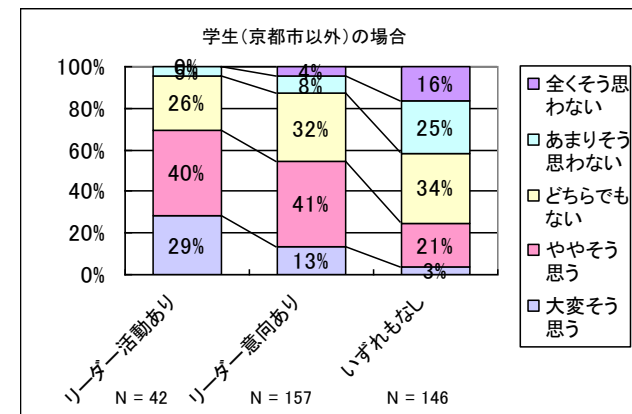
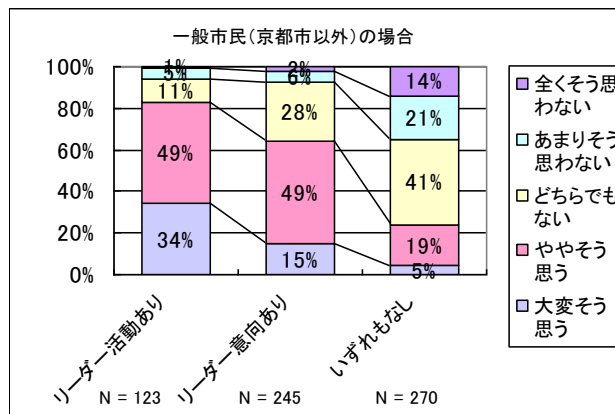
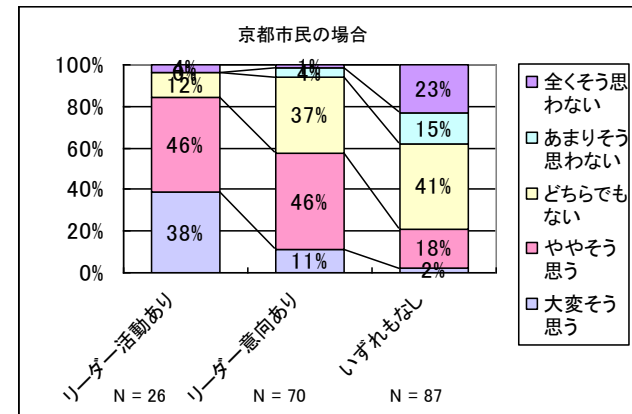
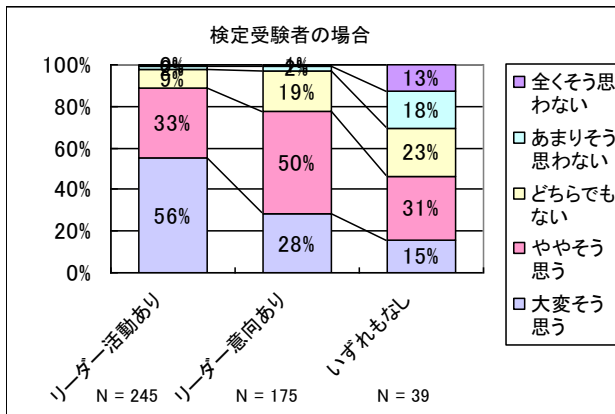
なお検定受験者とその他の調査グループでは、環境啓発・教育活動水準の分布が大きく異なっていたが、活動水準が同じであれば、意識の分布に大きな違いは見られない。これは他の意識についても見られる傾向である。すなわち、検定受験者の回答が全体的に特異的になっている理由の一つは、この環境啓発・教育活動水準が他の調査グループと大きく異なることに依存している可能性が示唆される。

類似の意識として、環境啓発・教育活動に対する義務感の分布についても図 5-6 に示す。やはり活動水準との関係が見られる。また、検定受験者は他の調査グループと比較して、環境啓発・教育活動水準が同じでもやや肯定的な回答に分布がシフトしている傾向にあるが、それほど大きな違いではない。この意識についても主として活動水準の違いが意識の違いと強く関係していると考えられる。



※設問:「自分が環境啓発・教育活動をするのを周りの人から求められていると感じる」

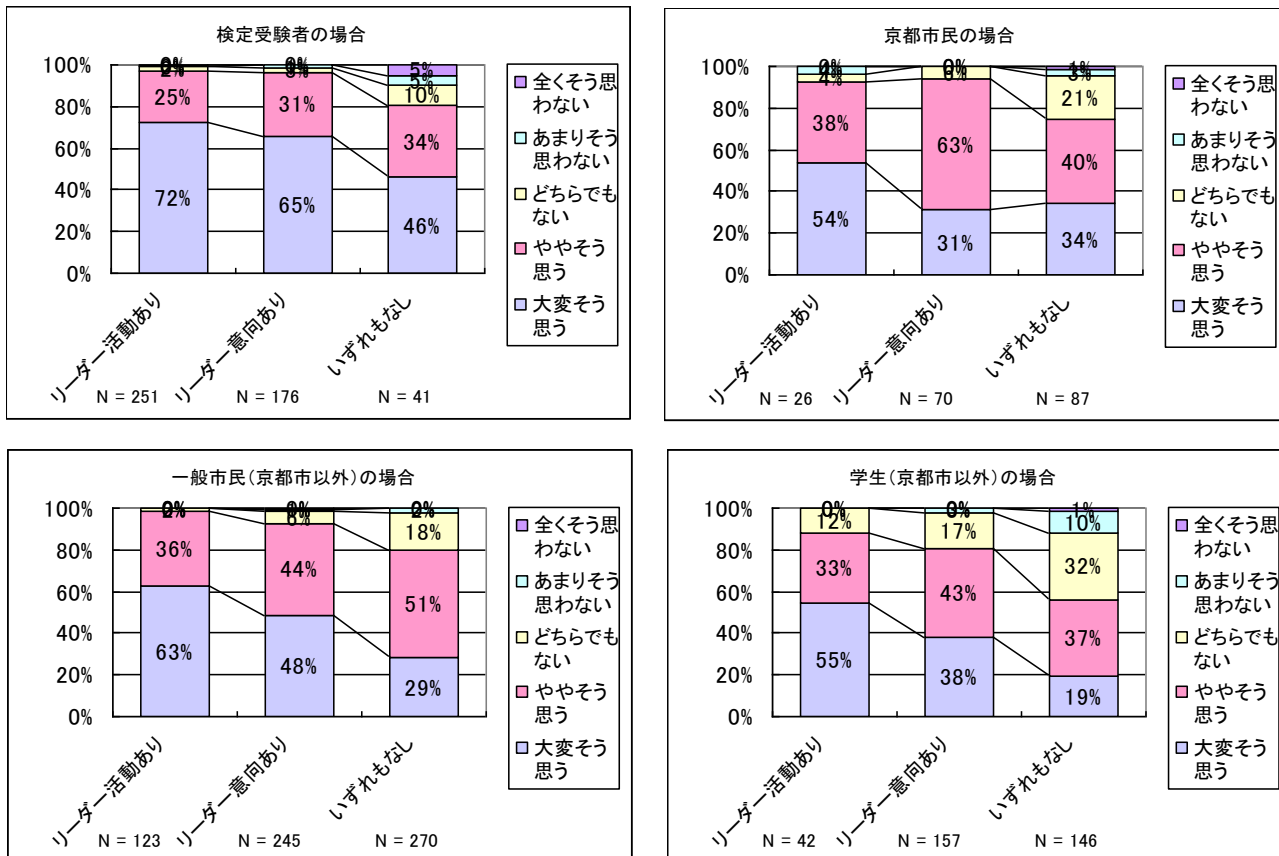
図 5-5 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別の活動に対する他者からの期待意識の分布



※設問:「環境啓発・教育活動をしなればいけないと感じる」

図 5-6 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別の活動に対する義務感の分布

一方、環境啓発・教育活動ではなく、ごみ減量行動に対する規範意識についての分布を見たのが図 5-7 である。環境啓発・教育活動に関する意識と比較すると、調査グループ間の違いがやや目立つ。検定受験者ではリーダー活動ありとリーダー意向ありの差が他と比較して大きくはなく、リーダー意向ありの人の意識は他のグループのリーダー活動ありの人の分布と変わらない。一方、京都市民の中のリーダー意向ありの人の意識の分布は、京都市以外の一般市民のいずれもなしの人の分布に近い。このように環境啓発・教育活動水準と減量行動に関する意識との関係もある程度見られるものの、前述の環境啓発・教育活動に関する意識との関係ほど一貫性は見られない。



※設問：「ごみ減量に協力するのは社会のルールである」

図 5-7 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別のごみ減量に対する社会規範評価の分布

次に、3R リーダーとしての適性や自信、および、知識・経験に関する意識について検討していく。

まず自分が 3R リーダーに向いていると感じている人の割合を図 5-8 に示す。いずれの調査グループにおいても、活動水準が高いほど向いていると感じている人の割合が多い傾向にある。

次に環境啓発・教育活動に対する自信の分布を図 5-9 に示す。自信についても全体的に活動水準との関係が見られ、活動をしている人の方が自信を持っている傾向にある。特に検定受験者でリーダー活動ありのグループは強く自信を持っている傾向がみられる。検定受験者は知識水準に対する一定の自信と現場での活動の経験の両方を持っていると考えられるので、これらの相乗作用でこうした結果が出ているのではないかと考えられる。学生については行動の有無との関係が小さい傾向が見られた。

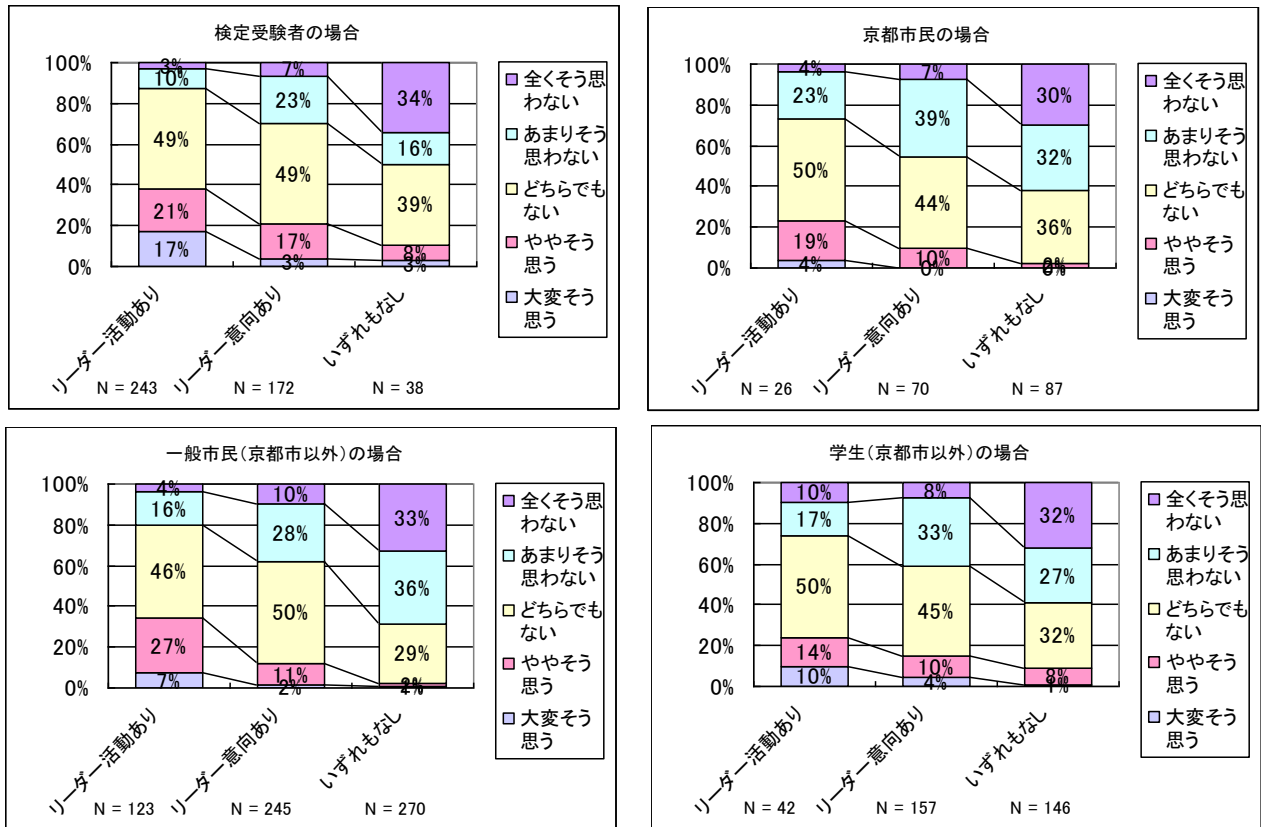
こうした自信の有無は、知識や経験の影響を受けているのであろうか。この点について検討した結果を図 5-10 に示す。検定受験者は知識・経験不足に否定的な傾向を示しており、これは知識面における一定の自信を反映していると考えられる。検定受験者・京都市民では、リーダー意向のある人において自信がない傾向にあり、これらの人への知識面のサポートの必要性を示唆する結果である。検定受験者以外では、自信の分布と類似の分布を示しており、知識・経験の欠如感と自信との関係を示唆する。

それでは知識・経験のうち、知識についても必要性を感じているのだろうか。その点について整理した図が図 5-11 である。検定受験者においては、必要性を感じる割合が多く、だからこそ 3R 検定を受検したと言えるだろう。ただしその中でも、環境啓発・教育活動を現にしている人とそうでない人の間では、知識の必要性の感じ方にやや差が見られ、実際に活動をしている人の方が知識の必要性を強く感じているこ

とがわかる。リーダー意向のある人とそうでない人の間にはそれほど大きな差は見られないことから、実際に活動することで、知識の必要性を強く感じるようになると考えられる。この傾向は、他のグループでも同様であり、検定受験者に特異的なことではない。このことから、3R 検定は、こうした実際に活動をする人の知識ニーズに応える可能性のある重要な取組みだと考えられる。

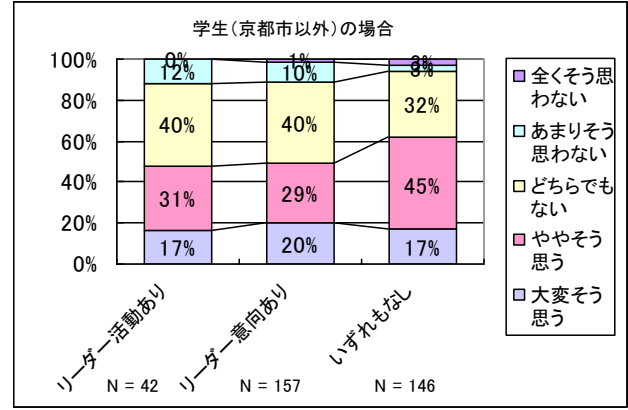
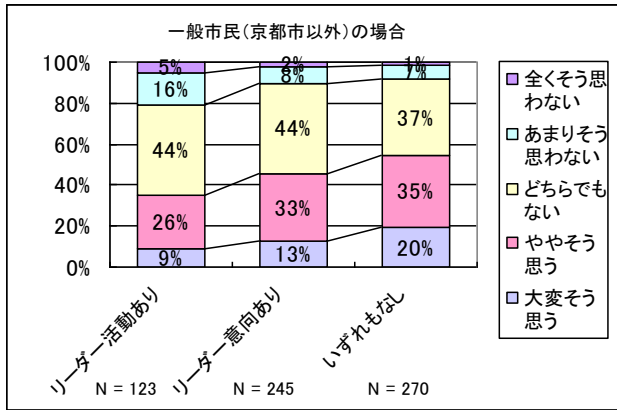
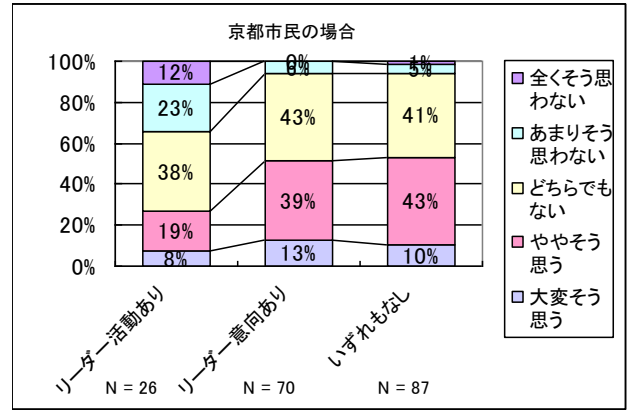
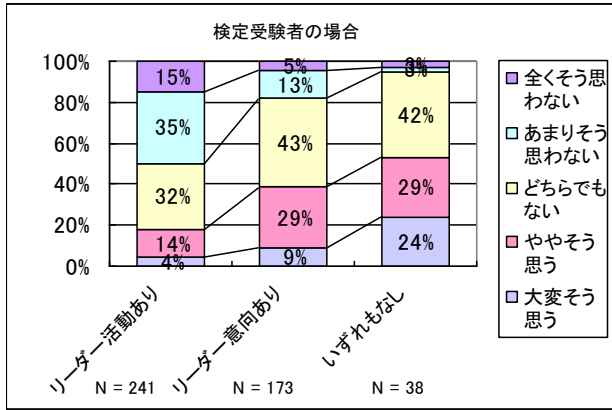
以上、環境啓発・教育活動水準と意識の関係を概観すると、特に環境啓発・教育活動に対する規範的意識や他者からの期待の強い人が環境啓発・教育活動を行っていた。適性や自信についても、環境啓発・教育活動水準との関係が見られ、自信は知識・経験の不足感との関係性が示唆された。知識の必要性については、実際に活動をしている人の方が強く感じる傾向にあり、環境啓発・教育活動をするには知識が必要であることを裏付けている。

リーダー意向を持つ人の中に自信のない人が一定の割合存在するが、こうした人が活動を始めるためのサポートとして、知識面と活動機会の提供を両方サポートすることが重要だと考えられる。



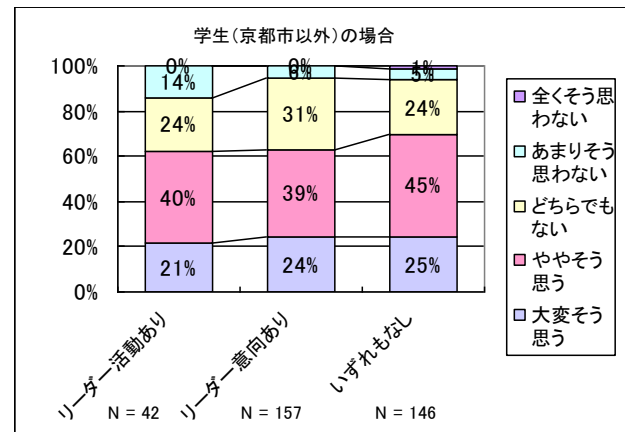
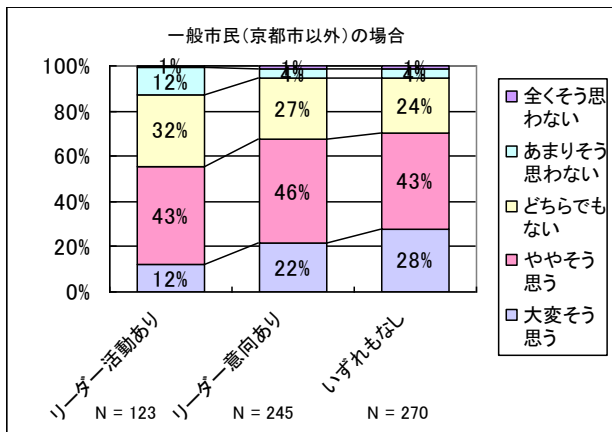
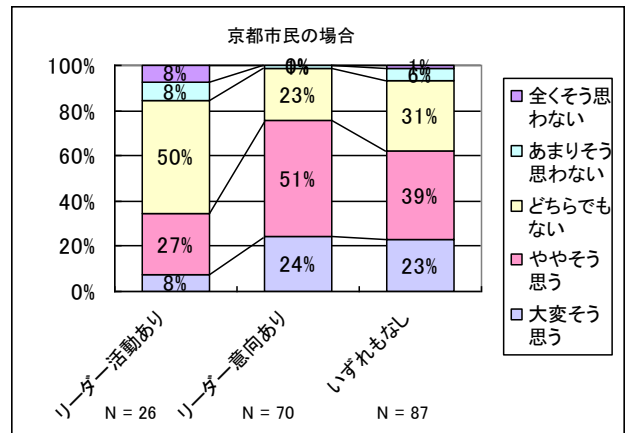
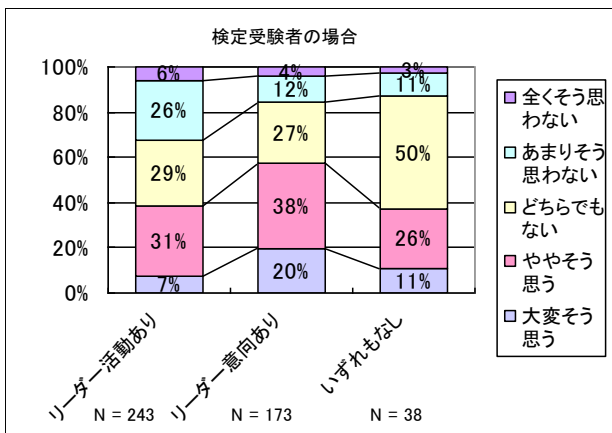
※設問：「自分は環境啓発・教育活動をするのに向いていると思う」

図 5-8 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別の 3R リーダーに関する適性意識の分布



※設問：「自分は環境啓発・教育活動をするには自信がない」

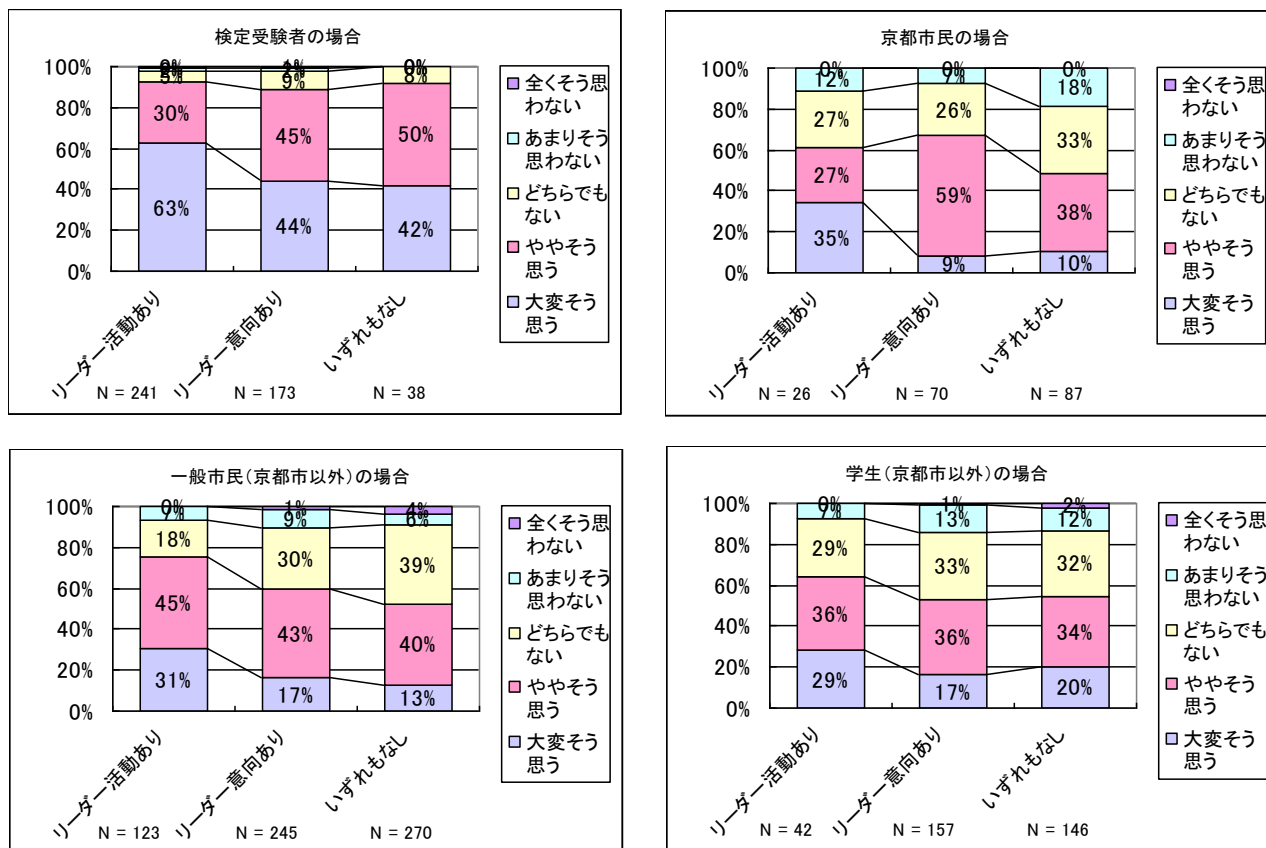
図 5-9 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別の活動に対する自信の分布



※設問：「自分には環境啓発・教育活動が出来るだけの十分な知識や経験がない」

図 5-10 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別の知識・経験の欠如感の分布





※設問：「環境啓発・教育活動をするには環境に関する十分な知識が必要だ」

図 5-11 調査グループ別環境啓発・教育活動水準別の活動における知識の必要性意識の分布

### 5.3 3R リーダーの情報ニーズ

5.2 の結果から、環境啓発・教育活動を行なっている 3R リーダーは知識・経験の不足を感じ、知識の必要性を感じていることが明らかとなった。それでは 3R リーダーはどのような情報ニーズをもっているのだろうか。ここではこの点について検討する。

初めにリーダー活動を行なっている人、および、リーダー意向のある人は、どのような情報について満足しており、どのような情報については不満かを調査した。一般市民（京都市民以外）、および、検定受験者の結果を図 5-12～図 5-15 に示す。グラフは、「まったく満足していない」とした人の割合が多い順に並べ直している。

全体的な傾向としては、リーダー活動ありの人の方がリーダー意向ありの人よりも満足度は高めとなった。これは、環境啓発・教育活動をしている人は情報が必要になるため、情報源を探して、必要な情報はある程度得ていると考えられるのに対して、リーダー意向はあるがこれまで活動をしていない人は、相対的に自ら情報を求めることが少ないためではないかと考えられる。そうした中でリーダー活動ありとした人が満足していない項目は、一般市民では「開発事業が周辺環境に及ぼす影響」、「環境に関する法律に関する情報」、「世界的な環境保全の動き」、「企業活動の環境負荷に関する情報」、「環境問題に対する行政の政策」、「展示会や講演会、セミナー等の案内」などが上位に上がり、検定受験者では「開発事業が周辺環境に及ぼす影響」、「環境問題に対する行政の政策」、「環境 NPO、市民団体などの情報」、「企業の環境保全に関する取組状況」、「自治体等の環境問題の相談窓口情報」、「企業活動の環境負荷に関する情報」、「展示会や講演会、セミナー等の案内」などとなった。いずれも「開発事業が周辺環境に及ぼす影響」がトップとなり、「企業活動の環境負荷に関する情報」、「環境問題に対する行政の政策」、「展示会や講演会、セミナー等の案内」なども両方とも上位に上がっている。

ただし、これらの関心を持つ程度は図 5-16～図 5-19 のようになっており、上記の量・質に不満のある項目は、必ずしも関心のある情報ではない点には注意が必要である。そうした中で、一般市民のリーダー活動ありの人の場合は「開発事業が周辺環境に及ぼす影響」、「環境問題に対する行政の政策」が、検定受験者の中のリーダー活動ありの人の場合も「環境問題に対する行政の政策」が、それぞれ不満でかつ、比較

的関心が高い情報となっている。環境啓発・教育活動をしている人に向けて、特に国・自治体の政策の情報をも的確に伝えることが、情報面では第一の課題と考えられる。

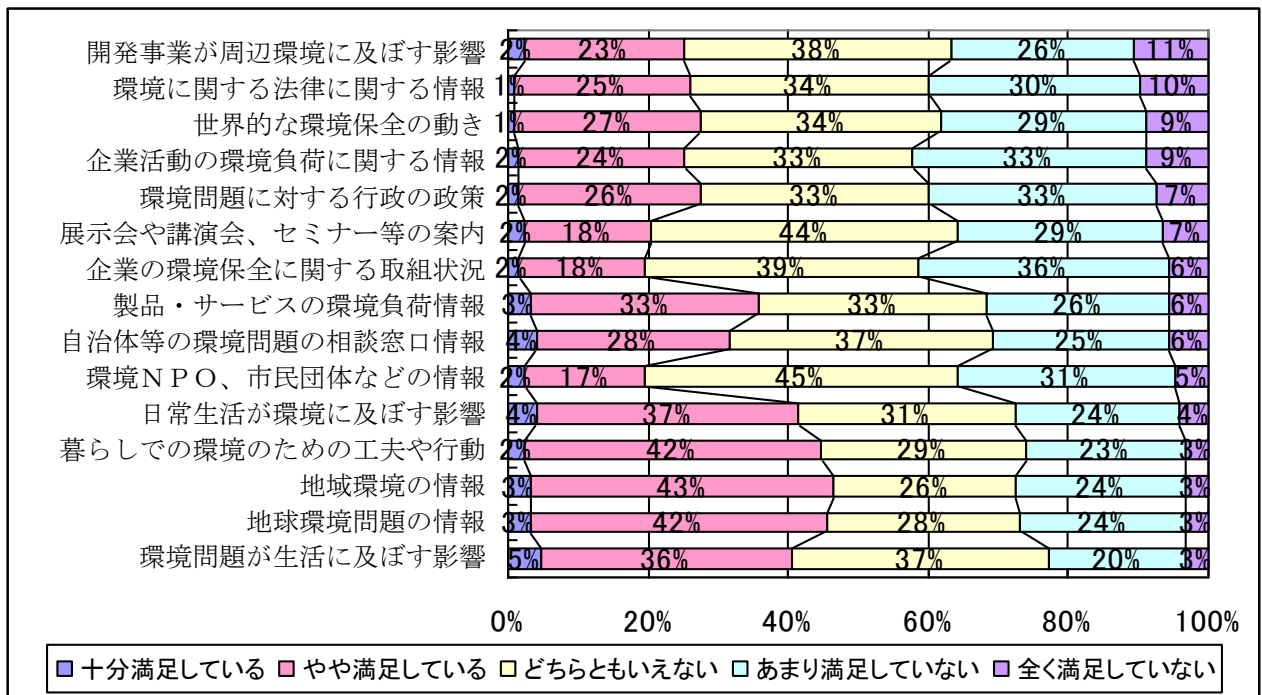


図 5-12 リーダー活動ありの人の情報の量・質に対する満足感（一般市民：京都市以外）

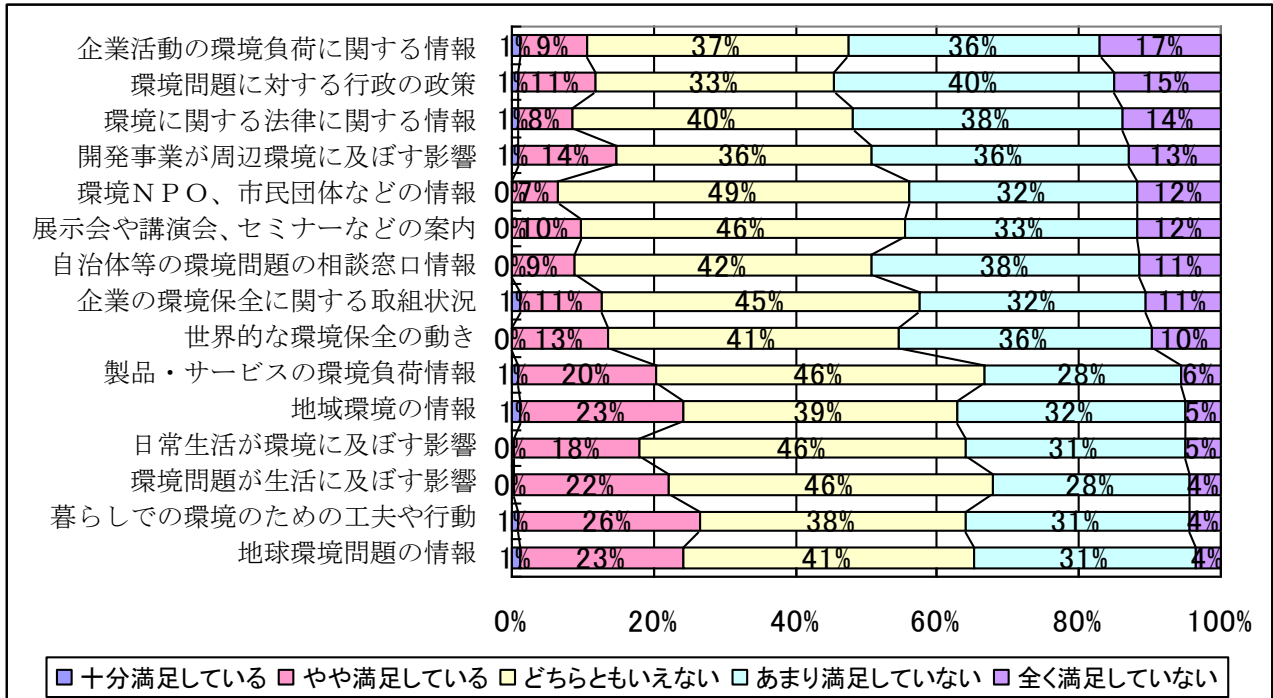


図 5-13 リーダー意向ありの人の情報の量・質に対する満足感（一般市民：京都市以外）

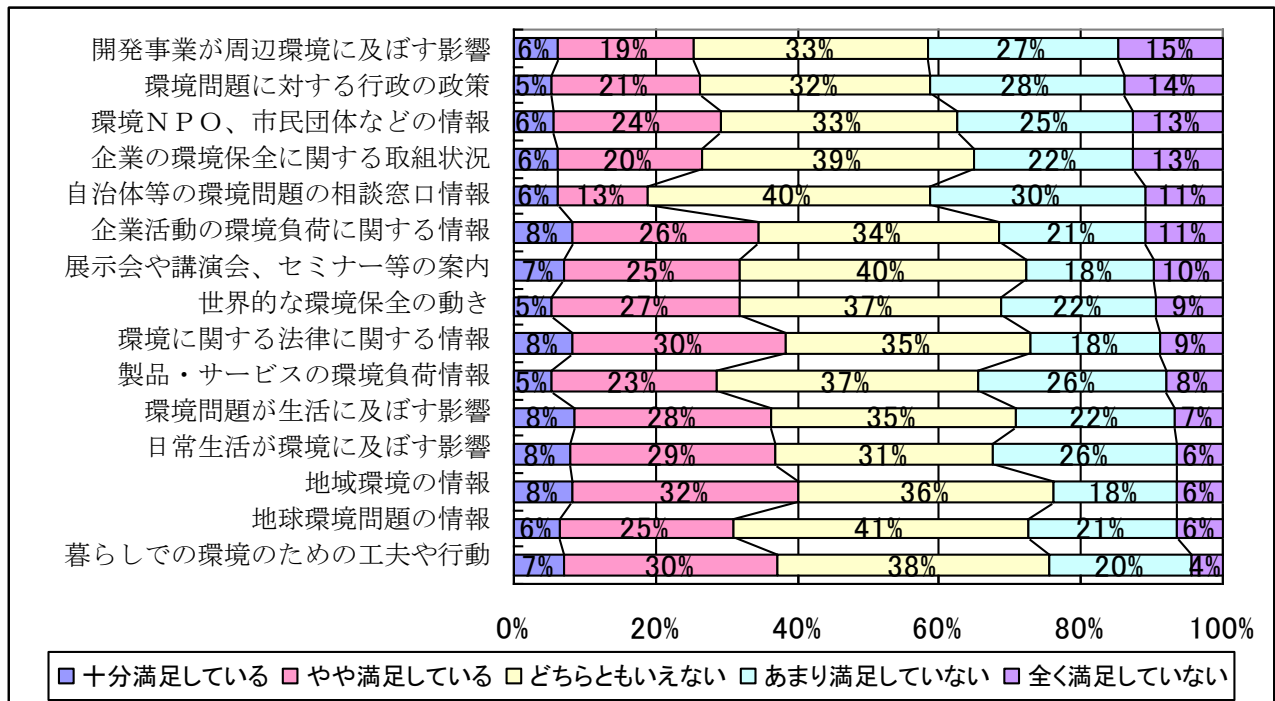


図 5-14 リーダー活動ありの人の情報の量・質に対する満足感（検定受験者）

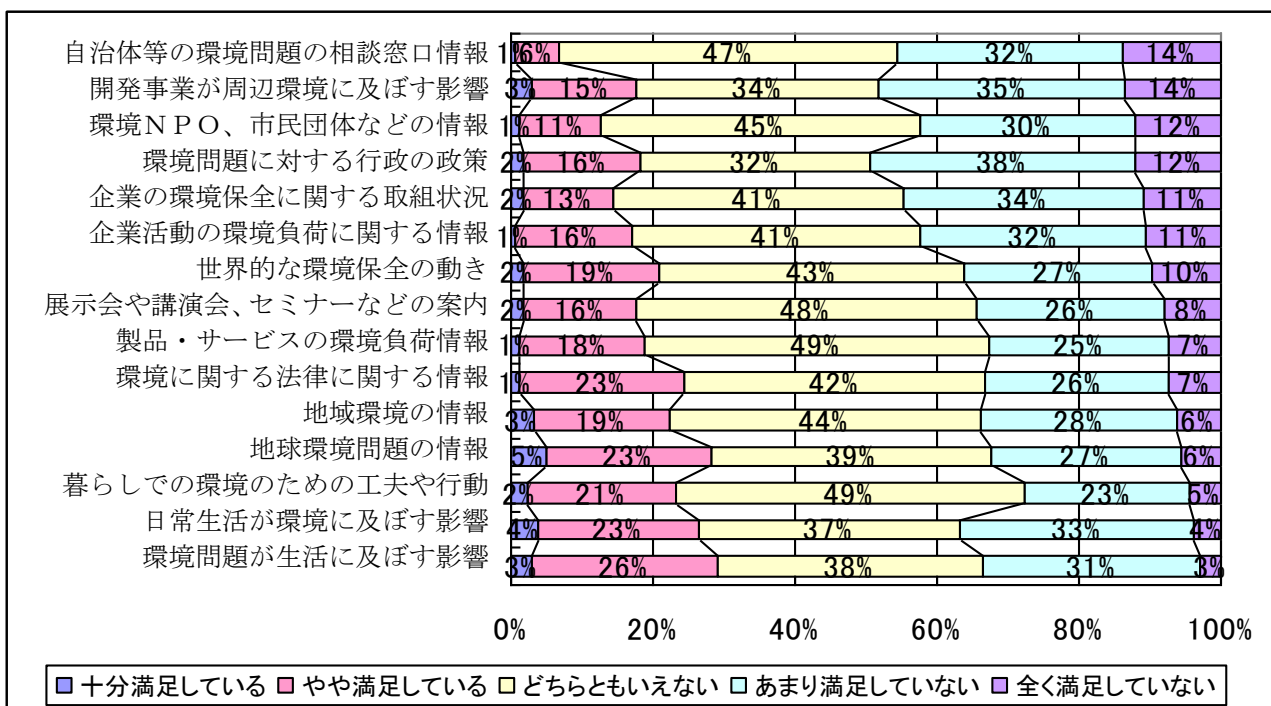


図 5-15 リーダー意向ありの人の情報の量・質に対する満足感（検定受験者）

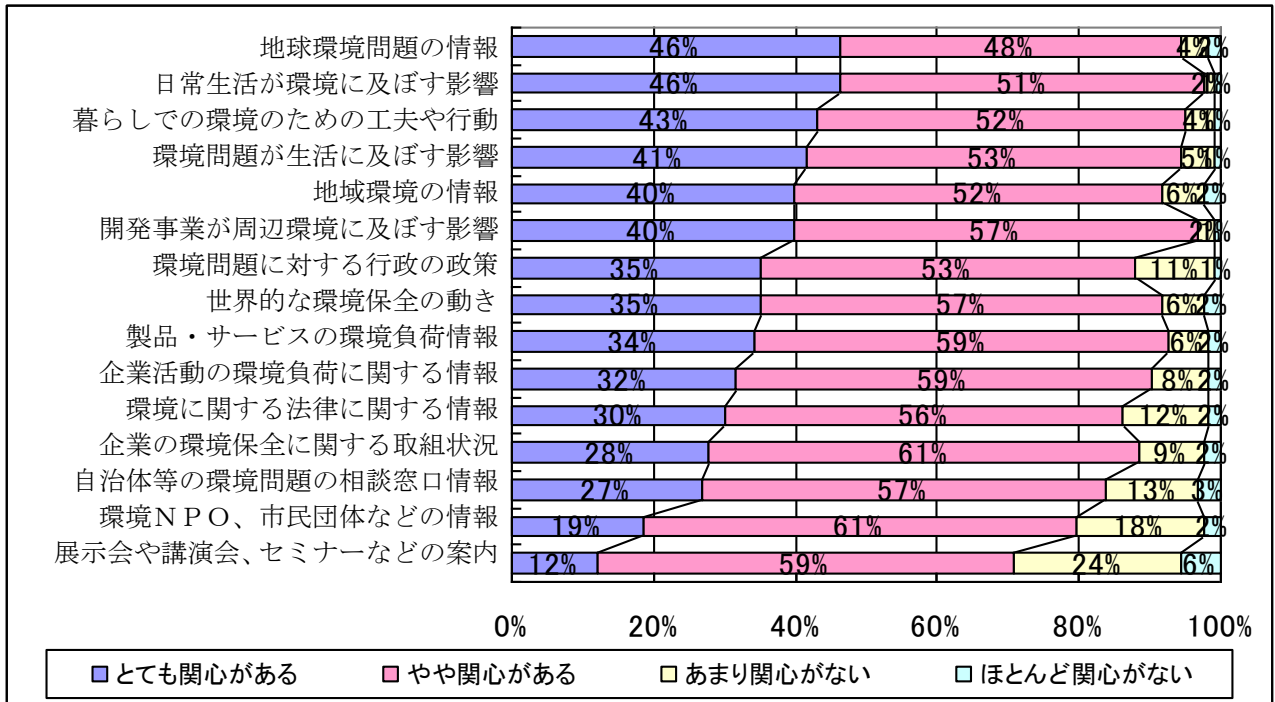


図 5-16 リーダー活動ありの人の各種情報に対する関心度（一般市民：京都市以外）

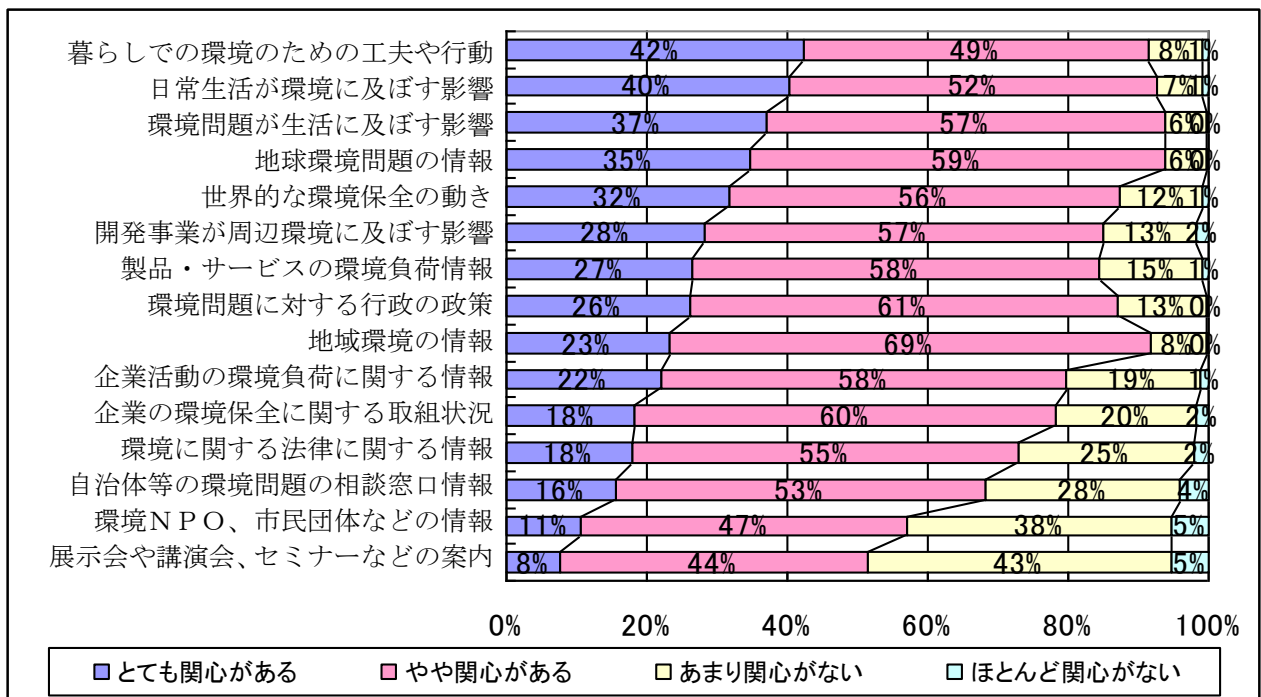


図 5-17 リーダー意向ありの人の各種情報に対する関心度（一般市民：京都市以外）

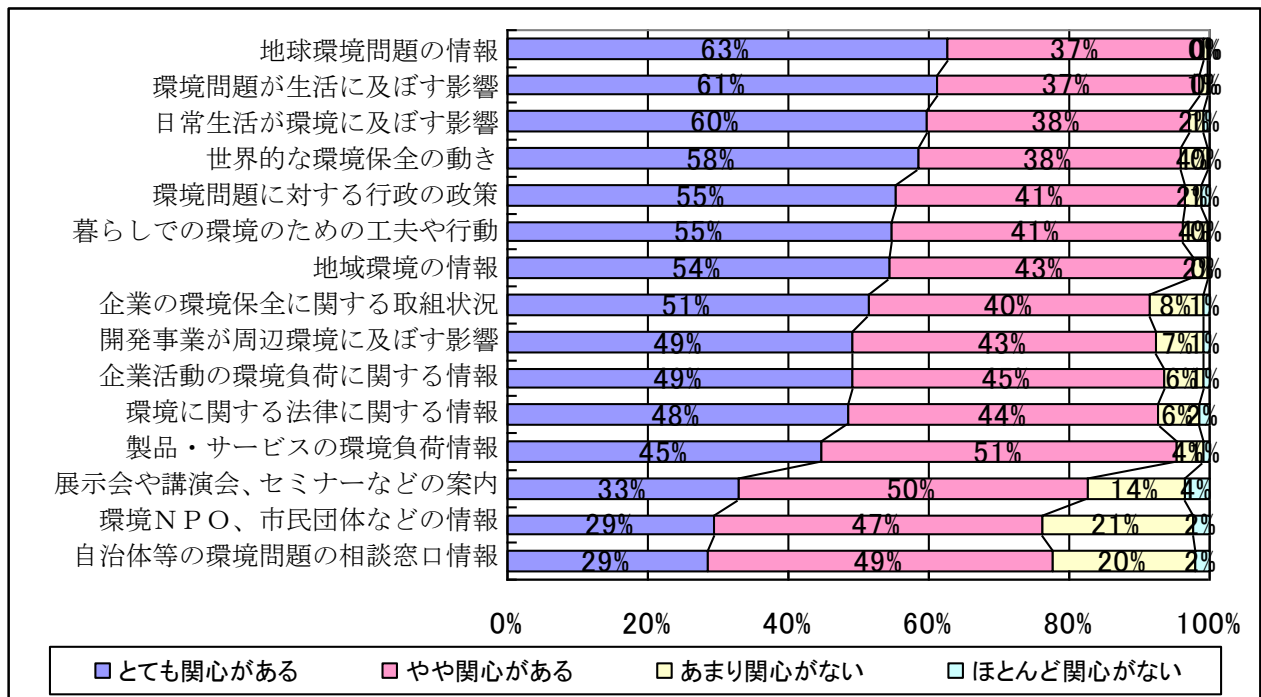


図 5-18 リーダー活動ありの人の各種情報に対する関心度（検定受験者）

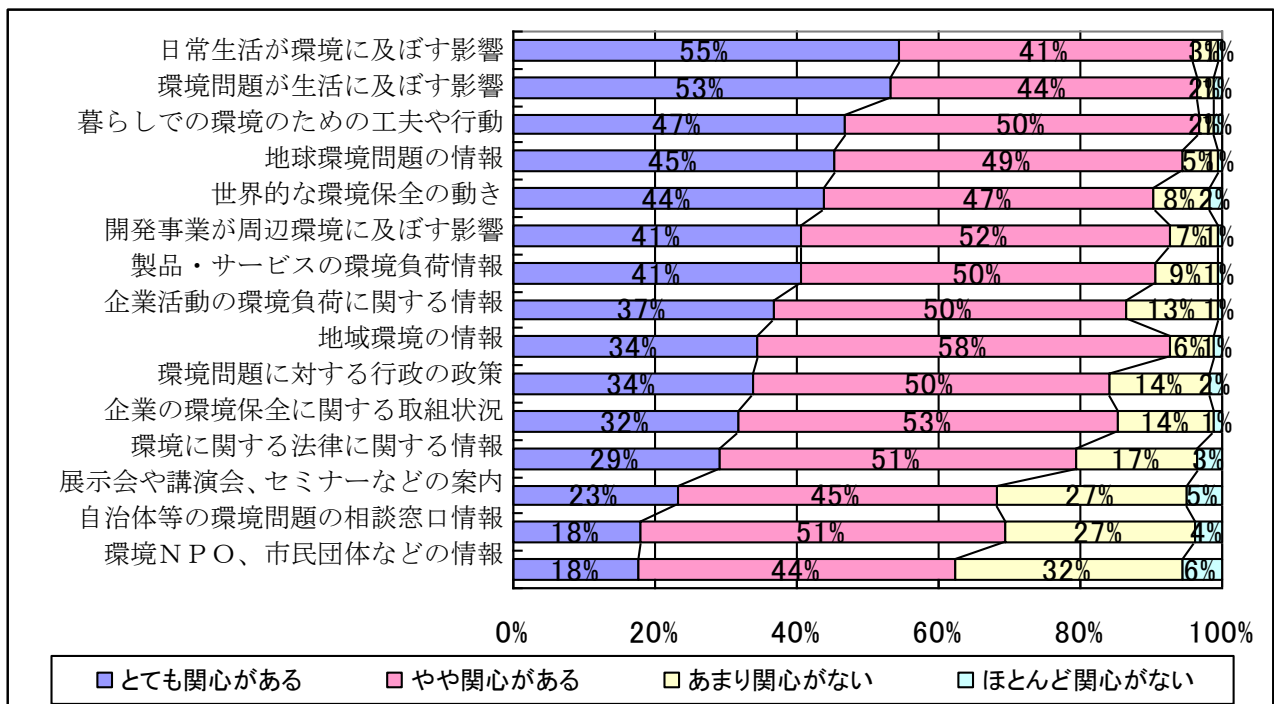


図 5-19 リーダー意向ありの人の各種情報に対する関心度（検定受験者）

## 5.4 3R リーダーの今後の活動意向と期待される支援

### 5.4.1 3R リーダーの今後の活動意向

現在の環境啓発・教育活動の有無に関わらず、今後、環境啓発・教育活動を行いたいとの意向を示した回答者に、どのような 3R に関連する活動を行ないたいか記述式で尋ねた。その結果に基づいて、活動意向の傾向について検討する。なお本節では一般市民（京都市民以外）と検定受験者についてのみ比較・検討する。

初めに、一般市民（京都市民以外）の集計結果を表 5-2 に示す。これは記述内容に含まれるキーワードを抽出し、そのキーワード等に基づいて、各タイプの活動に言及していると考えられる記述が何%の回答者であったかを集計したものである。複数回答ありとして集計している。

この結果を見ると、「リサイクル（含む分別）」に関する記述が最も多く、全体の約 3 分の 1 の回答者がリサイクル（含む分別）に触れていた。次いで多いのが、「活動・働きかけ等」に関する記述で、その次にリデュース関連の活動が続く。いずれも 1 割程度の回答者が触れていた。なお設問では、「3R 関連の活動」について聞いているが、これが環境啓発・教育活動に限定しているとは考えなかった回答者も多く、リサイクルやリデュース関連の個人的な取組みも多数上がっていた。

具体的に見ていくと、リデュースではレジ袋削減関係が多く見られた。単にマイバッグを持参する等の個人的な取組みを上げる例も多かったが、中には「手作りの簡単な手提げ袋を縫っておいて、まだレジ袋を利用している人に差し上げたいと思う」というように、他者への働きかけとしてレジ袋削減を上げている回答者もあった。また「飲食店で残飯を出さない工夫を客と店が一緒に考える必要あり」など協働の取組みを上げる回答者もあった。

リユースではフリーマーケット、ネットオークション、リサイクルショップなどが多く見られた。「資源ごみを自分達でアレンジして便利な物に生まれ変わらせるイベント」などリフォーム的な活動を上げる例もあった。

リサイクル関連では、分別に関する記述が多かった。リサイクルについても、個人的な生活行動としての実践の例が多かったが、他者への働きかけとしては「分別講習」、「実際に参加できるリサイクルのイベント」、「職場でごみの分別を行っているが、職場での分別基準には不満がある。リサイクル性をもっと上げるように訴えかけたい」等の意見があった。

「3R」という言葉を含む意見には、「3R の優先順位を周知する（リサイクルがトップではない）」など優先順位に言及した意見のほか、「3R のそれぞれの有用性を具体的に掲示する（身近におきかえて）」など具体化を上げる例もあった。中には「同じ中学校から他の高校に行ったと友人と、高校生の 3R 活動について比較調査してみたい」という高校生からの積極的な意見も見られた。

他者に働きかける活動としては、伝える活動も見られた。「最低限、自分の子供にはきちんと教える事」というような自分の子供に対する働きかけだけでなく、「何が資源になるか、ゴミを減らす事で環境がどう回復するか、など絵本にして小学生に配布してみたい」などより広く子供に伝える活動を上げる回答もあった。「これだけ変わるとゆう数字や物に置き換えてみてもらう」など、わかりやすく伝えたいという意向を示す回答も見られた。中には「環境保全に関わりそうな新たな技術や資源に関して紹介してゆくことが自分に可能であればやってみたい」などの技術的な情報提供や、「ブログを開設しているので、環境のために自分自身が実践していることをブログで伝えていく」などのネットを通じた情報発信を上げる例もあった。

そのほか、「ペットボトルよりパックをかうとかパックで何かふたが閉まるものを開発してもらおうとか」などメーカーとの連携を示唆する回答や、「ペットボトルのキャップの車椅子運動で、キャップを集めて持参してみたい」などの福祉と連携した活動への参加意向を表明する回答なども見られた。

表 5-2 してみたい活動  
(一般市民：京都市以外)

3R関連でしてみたい活動	割合
リデュース	10%
リユース	9%
リサイクル(含む分別)	32%
3R	3%
減量	6%
ごみ拾い等	2%
活動・働きかけ等	13%
啓発等	4%
調べる・学ぶ等	4%
回答数	430

次に、検定受験者に対して行ったほぼ同様の設問の結果を表 5-3 に示す。こちらは、一言だけの回答などは除外して、ある程度の量の記述があった回答のみを抽出した。分析方法は基本的に表 5-2 とほぼ同様である。若干、キーワードを追加するなどしたが、ほぼ同様のキーワードの有無で分類を行った。

表 5-3 では、最も言及が多かったのは「啓発等」で 5 割弱に上る。次いで「リサイクル」、「活動・働きかけ等」が 2 割強、「3R」、「減量」が 2 割弱、と続く。一般市民と比較すると、「リサイクル」の割合がやや下がり、変わって「啓発」や「3R」等が多くなっている。ここで啓発とは「伝える」「知らせる」というような他者への情報伝達的な活動を指している。検定受験者の最大の特徴はこの「啓発」が多い点であるが、これは検定受験者は図 5-11 で見たように相対的に知識・情報志向が強いこととともに、検定の受験準備を通して一定の知識・情報を獲得したことを反映した結果と考えられる。また 3R の出現頻度が相対的に高いのも 3R 検定ならではであろう。

このように検定受験者の活動意向は、一般のリーダー意向のある人と比較して、啓発系活動への意向が強い点が特徴であり、この点を生かしたサポートが望まれるだろう。

検定受験者の回答についても具体的に検討すると、リデュース、リユース、リサイクルに関する発言としては、これらの言葉を使用した回答が相対的に多く、3R 検定の学習の中で、こうした概念になじんだ可能性もある。より具体的な行動が挙げられていた例としては、リデュースでは過剰包装を減らす、リサイクルでは分別、などが複数の回答者から挙げられた。リユースについては、一般の回答者ではしばしば見られた古着のリユースなどは検定受験者では見られず、特に具体的な個人行動は挙げられていなかった。設問の意図としては個人行動ではなくて環境啓発・教育活動を挙げてもらうことにあり、検定受験者の方がその趣旨に沿った回答が多く得られたことを反映している。なお 3R 関係の回答には「もったいないの精神でコスト削減も意識して、まず廃棄物を出さない（リデュース）、やむを得ない場合はリユース、リサイクルに心がけます」、「3R すべき物としない方が全体としてよい物の説明を国民にきちっとして、無駄な費用を削減すべきである」、「生活に密着していること。3R への取り組みにより、生活費が削減できることを PR したい」のようにコスト面も意識した回答も見られた。3R の例外に触れた回答も見られた。

啓発等の活動としては、「自分自身がしっかり学んでそれを地域住民や学生などに伝えたい。地域温暖化防止と将来の子供たちに美しい未来を渡したい」、「幼児・児童への環境教育活動として環境紙芝居を作成して、県下に巡回活動する」、「子供たちにいろいろな環境問題やごみ問題を伝えてこれからの生活に役立てて欲しいと思う」など子供・学生に向けた環境教育活動がしばしば触れていた。また「かみくだいた表現やわかりやすい置き換え表現による説明を子供や同世代にしていきたい」、「どのくらい環境に負荷があるのかわかりやすく理解しやすい内容にし、わかってもらいたいです」などわかりやすく伝える活動を挙げる例もしばしば見られた。また正しい情報を伝える、ということ意識した回答もいくつか見られた。例えば「生活に密着した正しい情報（やりやすい情報）の入手と発信。3R 優先順位の例外や面倒くさいと思われない情報、お得と思える情報（金銭的に）」、「廃棄→改修→加工→製品化の中で、環境保全、資源保全のために役に立っているか、処分される場合と比較しわかりやすい説明すること」、「本当に環境にとってよい情報だけの提供（単なる気運作りのためだけの活動はしない）」などの回答があった。

一般市民と比較したときの検定受験者の特徴として啓発系の活動を挙げた割合が高いことを先に述べたが、さらにその内容を検討すると、正確な情報を、わかりやすく、子供たちに重点をおきつつ、伝えることを考えている回答が相対的に多かった。こうした活動をサポートするためには、正確な情報の提供やわかりやすく伝えるためのスキルを向上させる講習会などが一つの方法となるだろう。またわかりやすく伝えるための資料類・ツール類の提供なども一つの方法であろう。こうした取組みの可能性を検討することが望まれよう。

表 5-3 してみたい活動

(検定受験者)

したい活動・意味がある活動	割合
リデュース	11%
リユース	5%
リサイクル(含む分別)	23%
3R	18%
減量	18%
ごみ拾い等	2%
活動・働きかけ等	21%
啓発等	46%
調べる・学ぶ等	8%
回答数	61

## 5.4.2 期待される活動への支援

検定受験者に対して、期待される支援について記述式で尋ねた。その結果からいくつかの内容をピックアップしたい。検討対象とした回答は、上記と同様、一言だけの回答などは除外して、ある程度の量の記述があった61の回答である。ただし、1人の回答を複数の属性に分類しているため、複数のカテゴリーの回答数の和は、合わせたカテゴリーの回答数とはならない。

期待される支援として挙げられた主なものとしては、検定に関するもの、書籍類に関するもの、学習等の場に関するもの、リーダー向けの情報提供に関するもの、一般向け情報発信等に関するものなどがあった。

相対的に多いものとしては、リーダー向け情報提供と講習会等であり、基本的には知識のアップデートと拡大のための支援を求めている。特に法律の新しい動きに言及している回答が6件あり、特定のトピックとして挙げられたものの中では最も多くを占めていた。前述の3Rリーダーの情報ニーズに見られた政策に関する情報ニーズの多さとあわせて考えると、法律の形をとるもの、とらないものも含めて政策の情報へのニーズがあるが、特に法律についてはわかりにくいのでわかりやすい情報提供が欲しい、という状況が推察される。また3Rリーダーの情報交換会・交流会を求める声も数件あり、活動報告をお互いにする場などを求める声や活動機会を共有する場などへのニーズも感じられた。

また、持続的に勉強していくツール、地方にいたのでネットで学習できる機会を、など、学習ツールとしての視点から意見もあった。学習ツールという観点からは、テキストをもっとわかりやすくという意見や参考書や問題集を出版することで勉強しやすい環境づくりを求める声もあった。

3R 検定自体に対する期待も書かれていた。資格として確立し、活用を広げることに対する期待がいくつか表明されていた。また受験地を広げることの希望も2件ほどあった。

あわせて、一般向けの情報発信等を期待する声も少なからずあった。3Rの広告活動、エコの世論形成などの意見が書かれていた。3Rリーダーが地域、現場で活動する上で、社会全体の世論の後押しが欲しいということの現われとも取れる。しかし逆に、世論形成は各現場での活動がなくては進まないのも事実である。両者が相補って進んでいくことの必要性を、あらためて認識する必要があるだろう。

表 5-4 期待される支援の例（検定受験者）

支援内容		回答数	主な意見
検定	受験地	2	名古屋、地方での受験も
	受験者増・権威・資格等	5	権威、ポピュラーに、資格として確立、活用の方
書籍類	テキスト	2	わかりやすく
	参考書・問題集	3	参考書・問題集など増やして勉強しやすく
学習等の場	講習等	9	法改正情報、新技術紹介、住居地の近くの学習会
	意見交換会等	4	3R検定合格者(たまごも含む)の情報交換会もかねた交流会
リーダー向け情報提供		10	新しい情報、法改正情報、知識のアップデート、持続的に勉強していくツール、ネットでの学習機会
一般向け情報発信等		8	3Rの広告活動、エコの世論形成、さまざまな媒体、3Rに興味がある人を増やす

※分析対象回答数：61

## 5.5 3R リーダー活動と意識の実態について ～学生も含めて～

### 5.5.1 環境啓発・教育活動の実施状況

2009年度の学生アンケートの結果等も加えた環境啓発・教育活動の実施状況に関する設問の結果を図5-20に示す。これによると、第一回及び第二回検定受験者は、ほぼ同じ分布となり、「現在行っており、今後も行いたい」と答えた割合、すなわち3Rリーダーの割合は約5割いる。それに対し、一般市民では2割弱、学生では1割となった。「現在、環境啓発・教育活動を行っていないが、今後は行ってみよう」と答えた割合は検定受験者で約4～5割、一般市民で約4割、学生で5割弱存在することがわかった。

これらの結果から、検定受験者には3Rリーダーが多いことが改めて確認された。加えて、検定受験者以外においても、一般市民に約2割の3Rリーダーがいること、また「現在、環境啓発・教育活動を行っていないが、今後は行ってみよう」と答えた人（以下、リーダー意向ありの人とする）が4割前後存在することは、今後の可能性を示唆する結果と考えられる。このことから3Rリーダーを増やし、循環型社会の構築



を目指すには、まずはリーダー意向ありの人が環境啓発・教育活動の実践に踏み出せるよう、後押しをすることが有効だと考えられる。そのようにして周囲に働きかけていく人が増えることで、次第に、その人の周りの人々の生活行動が3R型に変わっていくことが期待される。

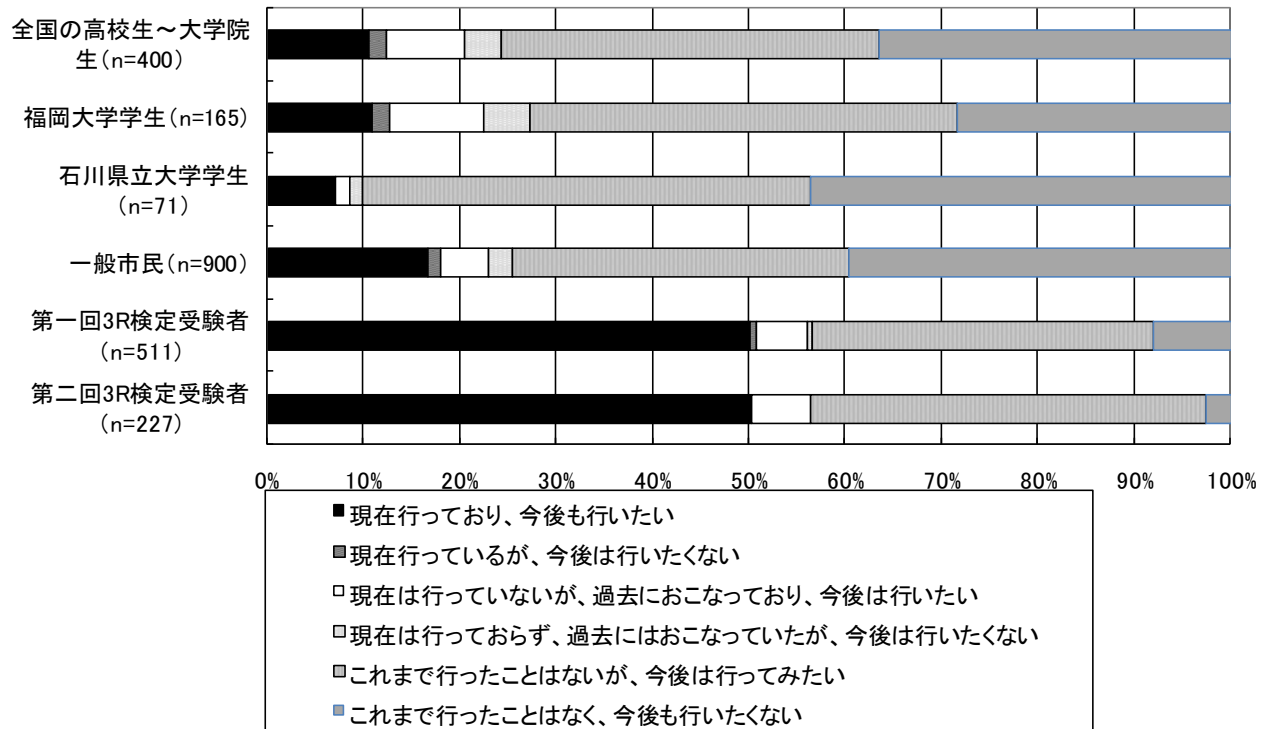


図 5-20 環境啓発・教育活動の実施状況

### 5.5.2 環境啓発・教育活動の内容及び立場

実施されている（されていた）環境啓発・教育活動の内容及び立場について、集計結果を図 5-21 及び図 5-22 に示す。ただし、立場については、福岡大学及び石川県立大学の学生へのアンケート回答の選択肢に、「消費者活動・ボランティア活動など社会活動のメンバーとして」及び「企業や自治体の CSR 担当や環境対策担当者として」は入れていない。

リーダー活動の内容については、検定受験者において、「3R、ごみ問題に関する活動」の割合が 8 割前後と高いが、全国学生や一般市民では、温暖化防止と 3R・ごみ問題の活動は同程度になっている。また、検定受験者に絞ってこの両者を行なっている人の割合を見てみると、約 3 分の 1 が両方している／いたと回答していた。このことから、これらの 2 つの問題に関する情報を関連付けながら提供することが有効であると考えられる。なお、福岡大学及び石川県立大学の学生で 3R・ごみ問題が高いのは、講義等の影響と考えられる。

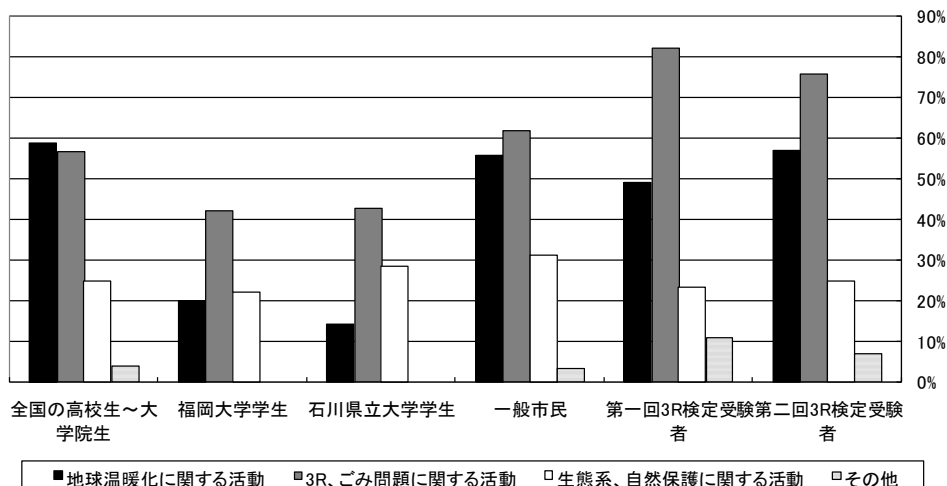


図 5-11 環境啓発・教育活動の内容

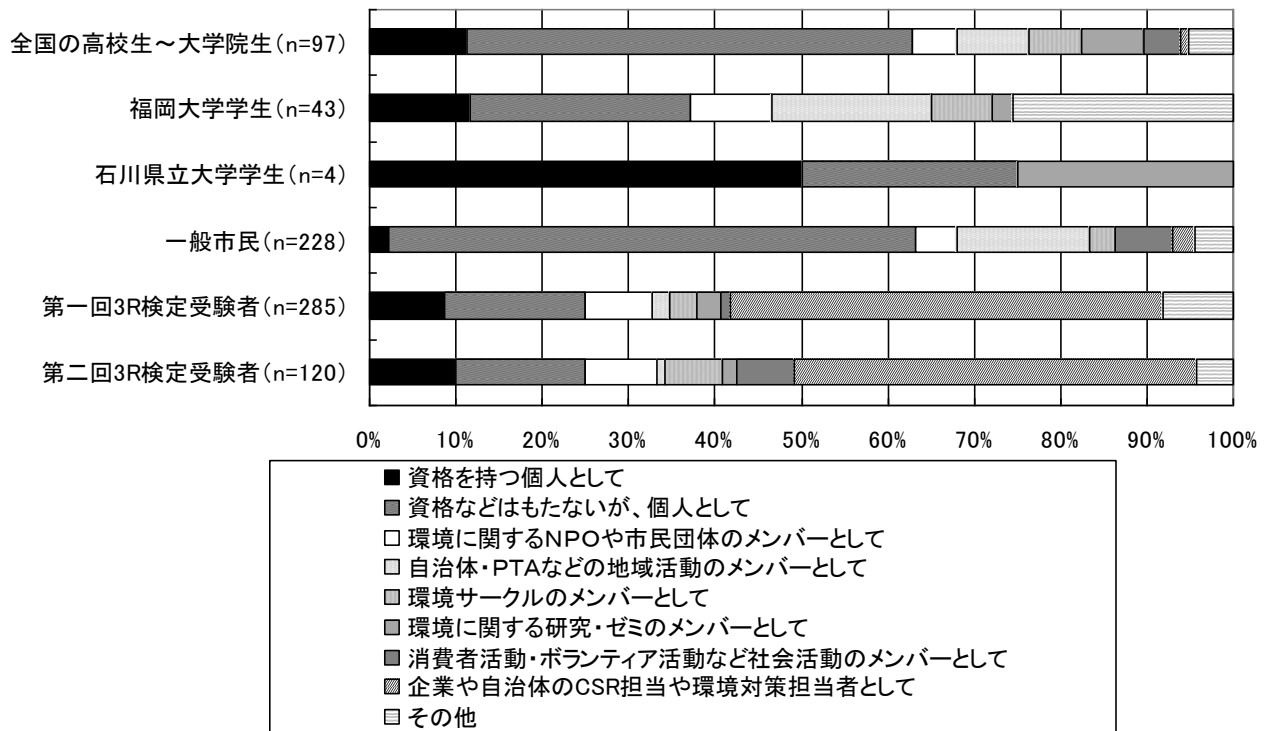


図 5-22 環境啓発・教育活動をする（した）際の立場

リーダー活動の立場については、検定受験者には企業や自治体の CSR 担当者や環境対策担当者がもともと多かったため、そのような立場で活動を行っている人が約 5 割と最も多い結果となった。この点は、他とは大きく異なる特徴である。一般市民及び全国学生、福岡大学学生においては「資格などは持たないが、個人として」活動を行っている人の割合がそれぞれ約 3～6 割を占める結果となった。また、一般市民においては、PTA・自治会などの地域活動のメンバーとして活動している割合が 2 割弱と比較的多い。これらの活動母体への働きかけも、今後、3R リーダーを増やし、レベルアップを目指す上で、重要と考えられる。なお、石川県立大学学生については、サンプル数が少ない（4 人）ため、この考察では対象外とする。

## 5.6 検定合格者の活動実態や意向について

### 5.6.1 3R 検定合格者の合格後の活動実態

ここからは、主に合格者向けアンケート（表 5-1）の結果を紹介する。

まず、3R 検定合格後、獲得した知識を活かして、新たに行った活動や行動（以前から行っていたことを、改善・工夫して行ったものを含む）があるか第一回合格者のみへ尋ねた結果を表 5-5 に示す。これによると、アンケート協力者 35 名のうち、25 人が回答を記述し、そのうち 24 人が何らかの活動・行動を行っていることがわかった。まず、自らの家庭生活において、新たな取り組みを始めた人が 7 人、地域における 3R 活動を始めたり工夫したりしたという人が 6 人と、多いことがわかる。また、「テキストで新たに知ったことを授業化した」「以前から行っていた市民活動等の中で、自信を持って意見がいえようになった」「廃棄物・リサイクルの講演を行った」など、習得した知識を活かした活動や行動も見られ、検定プログラムの有効性を示すものと考えられる。

同時に、ニュースレターなどを通じて、リーダー活動の実例を紹介したり、意見交換したりすることで、より多くの合格者に活動の輪を広げていくことが必要と考えられた。

表 5-5 第一回 3R 検定合格者の活動状況に関する回答一覧（記入者数：25 人）

<b>家庭生活における 3R 活動</b>
ごみ処理の再確認、修理などをして使えるものにする事など。
マイボトル・マイバックを常に持ち歩くようになった。
<b>資源リサイクル</b>
分別の徹底によるリサイクル化・有価物化
ゴミゼロ運動の取り組み(ゼロエミッション)
現在 3R リーダーの研修があれば参加できる範囲で参加させていただいているところでありますので、自主的に活動や ら行動をしているものはありません。(日常的な自らの 3R 行動は別にして)
容器包装の 3R 推進 環境負荷の低減について
<b>仕事(環境関連分野; 社内の EMS や CSR を除く)における 3R 活動</b>
仕事上、リサイクルにかかわっている。
<b>職場での EMS や CSR 活動、ボランティア活動</b>
会社での環境ボランティア活動を継続している。
テキストで新しく知ったことを授業化した。
企業教育の場で、3R を意識するような指導。
<b>職場での貸し出し用パネル作成</b>
廃棄物を取り扱う会社にて ISO 関連の業務に関わっていること。
<b>地域における 3R 活動</b>
以前から行っていたこと—市民活動の中で自信を持って意見がいえようになった。 環境カウンセラーとして今日学校で海岸のゴミ調査とその後 3R の話を自信を持ってできるようになった。 イベントに「3R クイズ」を取り上げ 答えあわせの後いろいろ質問に答えたり、答え方に幅が出てきた。
10 年前から職場(小学校)にて教職員向けにリサイクル推進啓蒙のためのニュースを発行。他校の同業者(学校用務) にも年号配布し、3 月で 120 号となる。あらゆる手段で自校のゴミ減量に取り組み、文京の学校リサイクルをリードする環 境派として活動。「学校ゴミダイエット」の編集に加わった一人。
小学校への環境教育のボランティアに参加。 植林ボランティアに参加。 生物多様性保全のため琵琶湖ヨシ刈りボランティアに参加。
T 環境カウンセラー協議会主催の環境講座において「廃棄物・リサイクル」の講演を行った。
ゴミの分別、ボランティアと川の清掃ボランティアに参加
C 県のエコマインド指導者に養成講座を受講し、集まったメンバーで環境教育を行う団体を設立したこと。
<b>地域における 3R の議論・政策への関与</b>
市廃棄物原料等推進審議会委員として市民の立場から参加している。
捨てるのがもったいないものを地域資源として活用する仕組み作り
<b>3R 検定受験の勧誘</b>
3R 検定の受験を周囲に呼びかけ第 2 回に 11 名が申し込まれた(結果は思わしくなかった)。検定受験案内申込書を出 前先得配布、教科書販売計 13 冊など。
社員及び仙台・関東の仲間に推奨。名刺・会社 HP 上での資格告知
さらなる学習や資格取得
<b>環境プランナーの試験に合格</b>
そのほか
自分の所属でない会社に対する 3R 教育活動
活動なし
現行の会社の仕事が障害となっていて、活動や行動ができず大変残念です。

※一部、内容に影響ない範囲で、単語や記述を変更している部分がある

## 5.6.2 3R 検定合格者の合格後の情報ニーズ

第一回 3R 検定合格者にのみ、現在、「深く知りたい」と思っている環境問題に関する情報（3R に限定しない）があるか、その場合の具体的な内容を尋ねた結果を表 5-6 に示す。これによると、アンケート協力者 35 名（第一回合格者のみへの質問）のうち、16 人が回答を記述した。全体に詳細な 3R 関連情報を必要とする意見が多くなったが、低炭素分野との関連や、活動のノウハウを知りたいという意見もあることがわかった。

表 5-6 第一回 3R 検定合格者の情報ニーズに関する回答一覧（記入者数：16 人）

地域の 3R・廃棄物管理に関する情報
現在しているゴミの分別収集が、「本当の意味で良い」とするには、どうすれば良いのか。
K 市の場合等 地域限定での環境負荷比較データが欲しい。
より詳細な 3R・廃棄物管理に関する情報
産業物の再資源化
3R の行動が具体的に環境問題にどのような効果をあげているのか
リサイクル市場に出なくなったウェスになる綿 100%素材を回収しバイオエタノールに再生できると聞きましたが、資源回収システムに組み込むことは可能なのでしょうか。複合素材のアルミニウムをアルミとして回収する方法。プラ分別の回収ではアルミ含有物もプラ認識され、もったいない気がします。
リユースと廃棄物の法律関係の整合性と数値的現状。リユースとリサイクルという言葉の誤解・勘違いをどのように整合して認知してもらえるか。
マテリアルリサイクル(特に都市資源)
3R と低炭素分野との関連に関する情報
ごみ問題に関連する、地球温暖化問題
3R 推進と地球温暖化防止(CO <sub>2</sub> 削減量)の関係 …… CO <sub>2</sub> 削減の尺度の使い方
マイナス情報(書籍等)に関する判断材料
リサイクル幻想や偽善エコロジーのような本の妥当性を知りたい。
現在実施している地域活動に必要なノウハウ
①古紙の分別に関し子供たちにたやすい分別法をいつも考えている。 ②腐葉推積について。 ③学校の省エネの取り組みにおいて用務としてどう関われるか。
環境を意識させる環境教育の実践方法
活動を始めるためのノウハウ
検定に合格はしましたが仕事に私生活に生かすところまで行ってませんのでどこから何をしたら良いかアドバイスをお願いします。
3R 以外を中心とした環境関連情報
生物多様性、LCA、再生可能エネルギー
生物多様性
環境汚染を減らすために有害物質の分解処理方法や化学反応で除去する技術を知りたいです。 急速に発展し続ける中国の環境破壊の影響を減らすためにも世界の経済のあり方、世界の物価が連動しすぎている気がします。
国、都道府県、市町村の環境関連の法案、条例策定や変更についての事。各市町村での環境教育に対する取り組み。地域振興の為に行われている環境イベントまたそのような取り組み、プロジェクト。

※一部、内容に影響ない範囲で、単語や記述を変更している部分がある

### 5.6.3 3R 検定合格者の合格後の活動意思と課題

今後、やってみたいと考えている環境活動・取組があるか、その場合の具体的な内容を尋ねた結果を表 5-7 に、また、それを実現するにあたっての課題があるか、その場合の具体的な内容を尋ねた結果を表 5-8 に示す。これによると、アンケート協力者 66 名のうち、前者の質問については 41 人が回答を記述し、うち 1 人を除いて、具体的な活動の意向があった。後者の質問については 30 人が回答を記述した。

まず、活動意向については、地域における 3R 関連活動を希望する人が 14 と多いことがわかる。その内容は多様であるが、特に次世代への環境教育が重要であることは共通認識と思われる。また、3R と低炭素分野との融合や、生物多様性などに関する取り組みをあげる人も一定数見られ、3R にこだわらず、幅広く活動したい意向が伺えた。

活動にあたっての課題については、「活動対象となる主体の協力や理解」と答えた人が 6 人と最も多かった。非常に重要な課題であり、どのように克服したかなどの情報を合格者間で共有するなど有効と考えられた。また、「活動や相談する仲間の不足」をあげる人もあり、将来的には、合格者間のネットワークなども検討する意義があると考えられた。

表 5-7 3R 検定合格者の活動意向に関する回答一覧（記入者数：41 人）

<b>家庭生活等における 3R 活動</b>
自然環境における本来行うべきリサイクルのあり方(スローライフ)
旅行先で見つけたゴミを拾う。日と目に付くところのゴミを拾う。それを適切に処理できるようになりたい。
<b>仕事(環境関連分野;社内の EMS や CSR を除く)における 3R 活動</b>
リユースできる価値のある物品を、マニフェストや法律の勘違いにより廃棄物(リサイクル)として扱われている現状を打破し、中古車のように常時リユースされるよう生産側とリユース店・購入側をつなぐ仕組みづくりとメーカーとの協体制作りなど。
携帯電話・電子機器などの都市資源回収。
ガラス瓶リユースの拡大、リターナブル一升瓶だけでなく(減り続けている)これからは小瓶のほうもリターナブル指定期待。リユース瓶の拡大、ワンウェイ瓶増税。
<b>有機性廃棄物他未利用有機資源の再資源化事業</b>
仕事上ではありませんが市民に対してゴミの分別について詳しく説明し、徹底していきたい。
KES 環境機構の活動の中に、中小企業が 3R の取組を活用出来ないか考えて見たい。
<b>職場での EMS や CSR 活動、ボランティア活動</b>
職場でのゴミ問題を試行錯誤しながら解決していきたい。
<b>3R 教育活動及び環境教育活動</b>
税理士として取り組むべきこと。
<b>職場における 3R の啓蒙、職場近隣地区の 3R ミーティング</b>
社内発生産廃の再資源化率向上
市役所からの派遣で現在の職にありますが、将来教育委員会に戻り、青少年教育の中で 3R を中心として啓蒙ができればと思っています。
<b>地域における 3R 活動</b>
今年は K 市のエコナビゲーターのボランティアをします。
地球環境フォーラムの方と共に学校の省エネの推進の取り組み方等について今年度から話し合っていく
<b>地域での循環型社会に対する取り組み</b>
<b>環境教育(出前教育)</b>
3R とアートのコラボまたは 3R とアートは両立するのか。年 2 回のイベントさらに 2 回参加者との交流を計ってみたい。
今はただ地域のボランティアに参加して、現状を把握しているだけですがもっと H 川の川がきれいになればよいと思っています。
各市町村での環境教育(主として C 県)他、現在の活動や作業にも機会があれば参加したいと思っています。
<b>子どもに対する環境教育</b>
身近な環境問題に「気づき」、そして「取り組む」人材の育成
容器包装の 3R 推進による資源循環促進
<b>地域・子供への教育活動</b>
<b>社会教育、環境教育</b>
3R を社会的に認知してもらうための活動
環境教育への取り組み。

社会や地域における 3R の議論・政策への関与
地域で耕作放棄田の有効利用を考えたい。非農家なのでなかなか進められないがまずは声を上げ仲間ができそうなところを探っているところ。
さらなる学習や資格取得
環境プランナー(民間資格)や環境省の環境カウンセラーの取得
3R全般にわたる勉強は今回の受験が始めて。もっと勉強しなければならない。
勉強不足名部分を補充するためにまずは講習会などに参加する
リサイクル処分を含めた LCA の評価。
エコツアー(処理場の見学会など)
3R と低炭素分野の融合のための取り組み、低炭素関連の取り組み
3R 活動を基に、地球温暖化解決のための新しい社会の枠組みのための提案。
気候変動にかかわる勉強会
エコ・エコノミーとか SLOHAS などにいわれるような、低エネルギーへのシフトについて考えてみたいと思います。(例えば、交通問題とまちづくりの両立)
生物多様性関連の取り組み
生物多様性ということもあり、里山里海保全活動orその授業化
外来生物対策
自然との関わりを勉強したいと思います
そのほか
雑誌や新聞への記事執筆。本の出版。
特になし
現在具体的なものはありません

※ 一部、内容に影響ない範囲で、単語や記述を変更している部分がある

表 5-8 活動に当たっての課題に関する回答一覧（記入者数：30 人）

経済的課題
3R 専門家としての生計が立てられる仕組み作りが必要です。今の仕事をやりながら、3R 専門家としての活動は無理です。ボランティア活動は考えていません。
資金
活動対象となる主体の理解や協力
生徒や教職員の協力
教員の意識不足、教員の負担増
教職員の協力(意識改革)
市民・企業に対する環境問題に対する意識改革。
校区ごと町ごとまたは団体などの集まりなどでミニ集会や説明会を細かくしていきたい。
企業の目的は「儲ける事」が最大である中で、環境改善への取組が有効であることを説明する手段として3Rが活用できないか？
人材不足
グローバルな視点を持った講師の手配。
仲間の存在
活動を行っているサークルが見つからない。
活動を実現する為のフィールド(場)、仲間の存在。
一人でやるのには限界がある。周りから変な目で見られることの克服時間
周囲の理解(研究活動環境の構築)。仲間とネットワーク作り。
知識やノウハウの取得、自信
正しい知識を知ること。
自分のレベルに少し不安
子どもに分かりやすく教える方法
環境対応コスト負担の説得性・納得性
分別の徹底と、再資源化可能な組織、会社の調査
知名度や実績が少ないので、肩書きが少ないので、
関連する機関在任中にできるだけ知識を吸収し、念願叶い希望の人事異動を願うのみ。
エコツアーに必要な情報の開示
時間の不足
時間に少し不安
時間の確保
会社員のため、時間的節約
受験前の勉強時間の確保が難しい
技術的・社会的課題
駆除技術
リサイクル・ecoという言葉の独り歩きと3Rへの誤解。産廃関連の法律の曖昧さ。 メーカー(生産者)責任とリユースへの関心の低さ。リユースに関する法整備の低さ。
小瓶を集めることはできてもその小瓶(洗い小瓶)を使っただけのメーカーや蔵が必要。
そのほか
Y川とかB湖とか里山での実習。自然と3Rを実践できる場の紹介とか提供。
ヘドロも含め定期的な清掃
今のところ具体的な課題はわかりませんが新しい課題が出てきた時点で協力相談に応じてください。

※一部、内容に影響ない範囲で、単語や記述を変更している部分がある